

平成19年度事業報告

平成18年度に介護保険法が改正され、制度に対する準備不足も重なり一部未実施の事業を実施することに19年度は意を注ぎました。生活課、栄養課においては栄養マネジメントの実施、地域化においては予防給付マネジメントの委託開始という内容になります。

また、開設5年を迎え1つの節目とし、従来のサービスの総点検及び上記2つの事業へのチャレンジの年度と位置づけ法人本部、各課が以下の事業を実施してきましたのでここに報告いたします。

法人本部

1 理事会・評議員会・監事監査

	理事会	評議員会	監事監査	実施時期	議案
			○	5/18	・平成18年度(福)ふじみ野福祉会度事業報告・決算報告に対する監事監査
第1回	○	○		5/25	・平成18年度(福)ふじみ野福祉会事業報告及び決算報告 ・社会福祉法人等による生計困難者に対する利用者負担軽減制度実施 ・資産管理(定款20条) ・施設長・理事の退任及び後任施設長・理事の選任
第2回	○	○		11/15	・社会福祉法人ふじみ野福祉会評議員の選任 ・平成19年度ふじみ野福祉会収支予算書の補正 ・特別養護老人ホームむさしの等利用者弔慰金規程改正
第3回	○			12/12	・社会福祉法人ふじみ野福祉会理事長等の選出
第4回 第3回	○	○		12/12	・社会福祉法人ふじみ野福祉会給与・退職金規程の一部改正
第5回 第4回	○	○		3/19	・平成19年度(福)ふじみ野福祉会収予算 ・平成20年度(福)ふじみ野福祉会事業計画及び収支予算

2 県監査

平成20年1月28日

法人運営状況、施設運営管理、処遇、財務管理、介護サービス事業運営状況について

て提出書類による書面審査の施設指導監査を受けました。重要事項については、特に指摘事項はありませんでした。19年度は書面審査でしたがその前に内部監査を自主的に行い整理しました。

3 選挙

当施設における期日前選挙を次のとおり実施しました。

- (1) 平成19年4月3日
埼玉県議会議員一般選挙
(施設利用者20名投票)
- (2) 平成19年7月20日
参議院埼玉県選出議員選挙・参議院比例代表選出議員選挙
(施設利用者18名投票)
- (3) 平成19年8月23日
埼玉県知事選挙
(施設利用者24名投票)

4 入札

20年3月6日にカーテン、紙おむつ、パソコンの介護保険システム一式の入札を行い、各備品に対し、落札価格により経費節減になりました。

管理課

1 経理事務の適正化

- (1) 埼玉りそな銀行の資金管理サービスが軌道にのり、介護報酬事務、施設会計処理を効率的に行い、また郵便局の自動振込システムを新規の入所、ショート及びデイサービス利用者は自動振込の移行に努め、自動振込されていない利用者も随時移行に努めました。

事務処理が敏速、効率的に処理できなかった所があったので、来年度は敏速に処理するよう努めていきます。

- (2) 職員の自主性を活かした会議・委員会を行うようにしていましたが、委員会については毎月開催することができませんでしたので、20年度は努力していきたいと思えます。記録はイントラネットを活用し、早期に入力し、全職員がどのパソコンからも閲覧ができ、職員の連携も密になりました。

会議

課長会議	4/6	5/29	7/16	9/19	12/21	1/18	2/21	3/19
主任会議	4/13	5/13	6/1	7/23	8/10	8/30	10/19	11/19

	12/7	2/20						
2階フロア 会議	4/10	5/9	6/5	7/3	8/7	9/18	10/2	11/6
	12/25							
3階フロア 会議	4/11	5/25	7/20	8/8	9/5	10/31	11/7	1/9
	2/6							
リーダー会 議	5/2	6/25	8/9	9/14	10/12	11/9	12/14	1/16
	2/15	3/14						
デイフロア 会議	5/10	6/22	10/11	11/7	1/18	2/28		
オンブズマ ン会議	4/11	5/9	6/13	7/18	8/9	9/12	10/11	12/19
	1/10	2/14	3/12					

委員会

安全委員会	6/13	8/8	10/26	12/12	2/13	
食事委員会	6/13	6/20	8/30	10/17	2/20	
入浴委員会	5/30	7/31	9/26	11/28	1/30	3/26
排泄委員会	6/14	7/9	9/17	10/30	11/14	3/12
整容委員会	6/26	9/19	11/21			
広報委員会	6/12	8/20				

2 介護サービス情報公開

利用者と事業所との双方に必要な情報提供として、12月13日に特養・短期・デイ・居宅の各事業所の介護サービスの情報公開を調査員立会いで行いました。調査結果については介護サービス情報公開センターに報告され、埼玉県介護サービス情報センターのホームページで公開しています。

3 施設管理の効率化

施設の総合維持管理については、委託会社を中心に毎月年間計画に沿って行いました。毎日施設内を巡回点検し、修理箇所がある場合は事の大小問わず即時委託会社と連絡を取り、その都度解決に努めました。パソコン、その他機器、公用車等修理については業務に支障のないよう対応しました。

月	実施内容
4	エレベーター・小荷物専用昇降機点検・定期設備巡回点検・定期清掃・害虫駆除

	点検・脱臭器・浄化槽点検
5	電気設備年次点検・害虫駆除点検・定期設備巡回点検・空調設備点検・フィルター清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検・グリーストラップ清掃
6	定期床面清掃・害虫防除点検・巡回設備点検・厨房給気フィルター交換・植栽管理・脱臭機点検・ガラス清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検・グリーストラップ清掃
7	濾過タンク取替・害虫駆除・消防設備点検・定期設備巡回点検・特殊建築物検査・厨房夜間清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検・グリーストラップ清掃
8	害虫駆除点検・定期清掃・定期巡回点検・貯水槽清掃・水質検査・植栽管理（消毒）・厨房給気フィルター取替・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・空調フィルター点検清掃・グリーストラップ清掃・浄化槽点検
9	害虫駆除点検・定期設備巡回点検・外部ペントキャブ、ドレン排水口清掃・自動ドア点検・井戸用給水ポンプ修理作業・ろ過機点検・風呂水レジオネラ菌検査採水・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・グリーストラップ清掃・浄化槽点検
10	定期設備巡回点検・害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・脱臭器点検清掃・グリーストラップ清掃・浄化槽点検
11	浄化槽11条検査・害虫駆除点検・厨房夜間清掃・定期設備巡回点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・空調設備フィルター清掃・植栽管理・グリーストラップ清掃・浄化槽点検
12	害虫防除点検・定期床面清掃・定期設備巡回点検・落ち葉清掃・ガラス清掃・桶・網戸清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・脱臭器点検・簡易専用水道検査・グリーストラップ清掃・浄化槽点検
1	定期設備巡回点検・害虫防除点検・消防設備点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検・グリーストラップ清掃
2	定期床面清掃・定期設備巡回点検・落ち葉清掃・脱臭器点検・害虫駆除点検・厨房設備点検・空調設備点検、清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検・グリーストラップ清掃
3	自動ドア定期点検・GHP エアコン室外機点検・定期設備巡回点検・厨房夜間清掃・害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・グリーストラップ清掃・ろ過機点検・浄化槽点検・建築設備定期検査

4 職員の研修の充実

職員の資質向上、情報収集のため関係団体が主催する各種研修に積極的に申込み、多くの職員に参加していただきました。または内部研修も研修担当を中心に計画を立て多

くの職員に参加していただきました。研修の内容は次のとおりです。

(1) 外部研修

研 修 日	研 修 内 容	参 加 者
5.24.25・29.30	社協新任職員研修	村上・植田・斉藤
4.25	ボランティア介護講座	市川
5.21	デイサービス部会研究会	岩川
6.4	経営協セミナー	富原
6.4・12	ボランティアコーディネーター新任研修	市川
6.4・5	特養における福祉ターミナル研修会	小山
6.15	雇用管理者責任者講習会	清水
6.20	雇用管理者責任者講習会	吉江
6.21	接遇推進者要請研修	岡澤
6.28	福祉用具講座	佐藤
6.29・7.2	社協中堅職員研修	細川
7.8	摂食、嚥下研究会	小原
7.11	給食施設衛生講習会	寺島・小越
7.12	看護職員研修会	中野
7.13	相談員研修	小山・市川
7.17	介護支援専門員研修	富原・佐藤
7.18	福祉用具研修会	伊藤
7.26	介護予防講座	岩川
7.30・31	社協指導的職員研修	嶋田
8.2・3	青年経営者、管理者基礎講座	吉江
8.3	事務員研修会	小山・三浦
8.16・21	社協運営管理職員研修	吉江
8.18	ヘルシーフードセミナー	寺島・鹿島
8.24	栄養士研修会	鈴木良
8.26	認知症、気づきヒットトレーニング講座	山口
8.27	防災に関する研修	清水義
8.29・31	魅力ある職場づくり研修	小山
9.8	埼玉認知症懇話会	久保
9.18・19	関東ブロック老人福祉施設研究総会	市川
9.25・10.9・10.30	社会福祉援助技術研修	鈴木正

9.26	成年後見制度活用講座	市川・古橋
9.27	福祉用具講座	松岡
9.27	介護予防講座	木村
9.27・28	介護保険制度改正対応会計研修	清水義
10.5	もの忘れ相談医講習会	樋口・古橋
10.9	ノロウイルス感染予防対策講習会	寺島・小越・村上
10.15	介護労働シンポジウム	嶋田
10.18	財務管理研修	清水義
10.22	ケアの質を高める「記録」セミナー	吉江
10.23.24.25.26	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会	細川
11.1	介護支援専門員等口腔ケア研修会	富原・古橋
11.2	情報管理研修	中村
11.17	高齢期の精神症状と異常行動を考える	久保
11.8	認知症高齢者グループホーム協議会研修会	鈴木正
12.5	退職手当共済制度実務研修会	清水義
12.9	若年認知症の理解公開セミナー	瀬下
12.14	青年部会研修会	樋口
1.16	介護予防講座	伊藤
1.30	経営戦略・会計研修	吉江
2.1	成年後見セミナー	小山
2.9	看取り研修	宮城・古澤
2.22	財務管理研修	清水義
3.8	介護予防、地域リハビリテーション事業研修	富原・古橋
3.12	介護予防講座	高野佐
3.13	精神保健福祉研修	富原・古橋 松岡・佐藤

(2) 内部研修

研修日	研修内容	参加人数
6.26	看取りケア	38名
7.19	安全配慮義務	28名
8.1・15・22	生活のリハビリ、移乗、移動の復習	43名
9.6	介護予防講習、アクティビティ	21名
9.12	相談援助技術、ケアカンファレンス	21名

11.20	瘡瘍	24名
11.27	AEDの使用手順	20名
12.3	感染症	10名
12.19	介護、認知症ケア	24名
2.25	安全検討会議 身体拘束ゼロ継続	23名
2.27	口腔ケア	21名
3.11	排泄	22名
3.17	接遇	45名

5 防災対策の強化・地域防災訓練との連携

- (1) 平成19年度は、利用者の生命と身体の安全を最優先に不測の災害に対応するよう毎月計画を立て、緊急に備え心肺蘇生の訓練については、数回行い多くの職員が習得でき、また消火、通報、避難、応急訓練を毎月計画とおり実施できました。

	実施日	訓練内容	参加者
1	4.20	消火訓練(消火器) 地震体験車による訓練	職員・利用者 49名
2	5.31	消火、避難、通報訓練	職員・利用者 80名
3	6.28	夜間訓練	職員・利用者 20名
4	8.31	応急訓練(心肺蘇生)	職員 14名
5	9.19	応急訓練(心肺蘇生)	職員 12名
6	10.26	応急訓練(心肺蘇生)	職員 13名
7	9.16	地域合同防災訓練	職員・地域の皆さん 46名
8	11.21	消火、避難、通報訓練	職員・利用者 80名
9	12.24	夜間訓練	職員・利用者 30名
10	1.24	通報訓練 (火災報知器・ケアロック)	職員 10名
11	2.18	応急訓練(三角巾)	職員 14名
12	3.27	消火、避難、通報訓練	職員・利用者 80名

- (2) 地域合同防災訓練については、9月16日(日)AM9:30から南畑第5町会の皆さん30名の参加を得て登戸公園を借りて災害時を想定した炊き出し訓練を中心に行い、ご飯を昔ながらの釜を使い薪を燃やしご飯を炊き、カレーを作り皆さんで食べました。また自衛消防隊消防操法競技大会に初めて参加しましたが、大会に先

立ってデモンストレーションを皆さんの前で披露しました。

6 安全衛生活動の推薦

職員の安全衛生に関し、健康診断、インフルエンザ予防接種、検便検査を定期的に行いました。産業医を迎え、インフルエンザ、ノロウイルス等の委員会を開催して検討し常に早めに対応しましたので大きな問題は起きませんでした。また職員及び利用者の家族等に対して施設内での手洗い、うがい等を徹底的に励行し、冬の時期だけでなく毎日行い感染症予防に努めました。

7 相談・苦情の対応

オンブズマンによる相談を受付けて、利用者の権利擁護を中心に施設運営へ助言をいただき、生活の向上を図りました。

8 情報公開

事業計画、事業報告等の情報公開を施設窓口で行うと共に、施設のホームページを利用し、利用者、ご家族、関係機関への情報提供を行いました。

アンケートを行い内容等検討し、施設内での行事、報告等を連載した広報誌を年4回発行し、利用者の家族、地域の関係機関等に配布しました。

生活課

生活課における全体目標において、各セクションが総点検としてサービス提供に取り組みました。前年度の継続と新しい取り組みが出来ましたが、各セクションへの活動内容の引継ぎ、周知徹底が十分出来ていないことがみられました。また余暇活動では上半期は多種多様な活動への取り組みが出来ましたが下半期は取り組みが不十分になってしまいました。来年度の目標としては、委員会・会議等における引継ぎ・周知・1つの課題に対して、全体で関わりをしていくことで今年度以上の介護サービス提供に取り組んでいきます。以下の事業の総括、課題を報告していきます。

介護

前年度に比べ、利用者一人一人の介護サービス提供に取り組むことができましたが、生活援助の中で、職員・職種間の引継ぎ・周知が出来ず、統一した介護サービス提供・環境整備・細部までの配慮への援助においては不十分なことが多くみられました。課題として個別ケアを考えていく中で、利用者の生活を中心に安全、安心、明るい、楽しみがある生活援助を各専門職として役割を發揮し、介護サービス提供に取り組んでいきます。

1 余暇活動について

余暇活動の取り組みとして、活動の回を重ねるうちに多種多様なレクリエーションを実施しました。また各ユニットにてプログラムの作成、職員の業務割りにて周知して行いましたが、目標である6ユニットの余暇活動への取り組みは不十分でしたので今後の課題としていきます。各ユニットの余暇活動をしていきましたが、実施する日、未実施の日があり、各ユニットに差が多くみられ、状況としては、職員の余暇活動への意識、直接介助が中心になってしまったことが挙げられます。20年度は年間を通して余暇活動への取り組みをしていきます。

2 利用者の状態変化に対応できるケアプラン

年間2回のケアプラン作成を実施できました。利用者の状態変化に応じた早めのケースカンファレンスを行うことができました。また、1回目のケアプランよりご家族の意見を伺い、2回目のケアプラン作成に反映できるように他職種で会議を行い、作成に取り組みました。しかし、1回目から2回目において残存機能、身体面、精神面での能力の発揮、維持について中心になってしまいましたが、来年度は個別性を重視した発展するケアプラン作成に取り組んでいきます。

3 特別老人ホームから小さな家庭、社会へ

今年度もユニット経費を活用し、利用者の個性、季節感のあるユニット作りを進めてきました。アルバム製作でのデジタルカメラ・プリンター購入、毎食事に使用のお盆の購入による雰囲気づくりや、ベランダでの植物の栽培など各ユニット同士が個性を競うような形で独自のユニット作りが行えました。前年度と比較しても、ユニット経費の使用では、まだまだ有効活用されていないのが現状でした。来年度は各リーダー、ユニット担当を中心に個性・雰囲気作り・環境整備についてはユニット単位から担当職員の居室制への検討をしていき有効活用をしていきます。

各ユニット（年間10万円）

2階・ふじ	2階・ゆり	2階・きく	3階・きり	3階・さくら	3階・もみじ
・観葉植物 7,588円	・置物 945円	・籠 2,835円	・簾 1,785円	・マニキュア 1,890円	・造花 1,575円
・おぼん 32,054円	・写真 2,120円	・ラジカセ 5,480円	・テーブルク ロス 15,888円	・週刊誌 15,040円	・CD 15,709円
・写真 1,896円	・時計 8,800円	・写真・額 2,046円	・時計 8,800円		
	・ラジカセ 8,970円		・造花 2,140円		
	・キッチン				

	掃除用品 7,052円		・写真 2,000円		
41,538円	27,887円	10,361円	30,613円	16,930円	17,284円

2、3階余暇活動報告

ユニット	2階・ふじ	2階・ゆり	2階・きく	3階・きり	3階・さくら	3階・もみじ
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・遊び ・ゲーム ・音楽・歌 ・大正琴 ・ピアノカ ・カルタ ・カスタネット ・写真撮影 ・輪投げ ・折り紙 ・カルタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・遊び ・ゲーム ・音楽・歌 ・ハーモニカ ・写真撮影 ・紙芝居 ・お化粧 ・ボーリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・体操 ・ゲーム ・音楽・歌 ・大正琴 ・写真撮影 ・輪投げ ・お化粧 ・塗り絵 ・折り紙 ・玉入れ ・お手玉 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・遊び ・ゲーム ・音楽・歌 ・体操 ・トランプ ・折り紙 ・玉入れ ・紙芝居 ・マニキュア 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・遊び ・ゲーム ・音楽・歌 ・体操 ・トランプ ・折り紙 ・玉入れ ・アロマ ・輪投げ ・塗り絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・ボール運動・体操 ・ゲーム ・音楽・歌 ・体操 ・トランプ ・折り紙 ・ゴルフ ・マニキュア
合計（回数・人数）	47回 311名	51回 238名	54回 311名	24回 84名	56回 198名	37回 171名

考察

・上記の結果より、2階・3階の余暇活動への差が多少みられました。職員配置では、2階（遅番3名）職員配置より余暇活動の回数・人数が多く、前年度に比べると活動への取り組みができました。3階（遅番2名）職員配置では、職員の直接介助が中心となり余暇活動への取り組みが不十分でした。来年度は人員配置を変更し、余暇活動に取り組んでいきます。また時間帯では、2階が午後に集中しているが、3階は午前集中をしている。状況としては、2、3階の人員配置、職員の余暇活動への取り組みの意識が少ないことが上げられるため、来年度は日々の業務の中で、各リーダーを中心に職員が余暇活動への取り組みをしていきます。余暇活動を通して利用者・職員の笑顔がある活動、1日1回以上の活動を目指していきます。また各ユニットの利用者の重度化に伴い、活動内容に限られてしまうことがみられますが、一人一人の余暇活動に力を入れていきます。

年間諸行事

実施期間	行事名	内容	実施ユニット	備考
4/6	花見	昼食を摂りながらお花見を楽しむ	ゆり	1階テラス
4/10	花見	昼食を摂りながらお花見を楽しむ	きり、さくら	1階テラス
4/11	花見	昼食を摂りながらお花見を楽しむ	きく	1階テラス
4/13	花見	昼食を摂りながらお花見を楽しむ	もみじ	1階テラス
4/29	花見	昼食を摂りながらお花見を楽しむ	ふじ	1階テラス
4/25	外出	外出し買い物を楽しむ	きく	ヤオコー
4/26	外出	外出し買い物を楽しむ	ゆり	ローソン
5/5	端午の節句	鯉のぼりの張り絵を作る。 行事食（鮭いくら散らし寿司、澄まし汁、高野豆腐の含め煮、ブロッコリーサラダ、いちご）	2階	
5/5	端午の節句		3階	
5/9	アイスクリームバイキング	おやつ時、バニラ・チョコ・ストロベリーの種類の中から選んで食べて頂く。	2階、3階	各ユニット食堂
5/15	外出	外出し買い物を楽しむ	きり	しまむら
5/18	外出	外出し買い物を楽しむ	さくら	しまむら
5/28	外出	外出し買い物を楽しむ	もみじ	ヤオコー
6/4	運動会	玉入れ、ボール回しなどを行い、体を動かす。	2階、3階	中央ホール
6/20	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	ジョナサン
6/20	外出	外出し買い物を楽しむ	もみじ	ベルク
6/20	ユニット行事	ホットケーキ	きり	ユニット
6/22	ユニット行事	ホットケーキ	さくら	ユニット
6/25	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きく	喫茶ひだまり
6/27	外出	外出し買い物を楽しむ	きり	ベルク
6/29	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ゆり	ジョナサン
7/2	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ふじ	ジョナサン

7/4	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きく	喫茶ひだまり
7/7	七夕	短冊に願いを書き、飾る。 行事食（赤飯、かき玉汁、刺身盛り 合わせ、なすの辛子和え、七夕ゼリ ー）	2階、3階	各ユニット
7/11	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きり	喫茶はな
7/12	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ゆり	ジョナサン
7/18	外出	外出し買い物を楽しむ	もみじ	しまむら
7/28	納涼祭	家族とともに行事食を召し上がり、 楽しむ。行事食（おでん、今川焼、 焼き鳥、焼きそば、すいか、チョコ バナナ、フランクフルト）	2階、3階	園庭
7/30	土用の丑の 日	昼食時にうなぎを食べる。	2階、3階	各ユニット食 堂
8/1	外出	外出し買い物を楽しむ	さくら	ヤオコー
8/2	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きり	喫茶はな
8/7	ユニット行 事	かき氷を楽しむ	きり	ユニット
8/8	ユニット行 事	かき氷を楽しむ	さくら	ユニット
8/16	ユニット行 事	かき氷を楽しむ	ゆり	ユニット
8/16	ユニット行 事	そうめん流しを楽しむ	もみじ	ユニット
8/17	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	喫茶はな
8/20	ユニット行 事	フルーチェを作り、楽しむ	きく	ユニット
8/21	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	もみじ	喫茶はな
8/22	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼き を実施。	きく 「もんじゃ焼 き」	きくユニット 食堂
8/22	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ゆり	喫茶はな
8/23	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼き	さくら	さくらユニッ

		を実施。	「牛肉・豚肉」	ト食堂
8/24	ユニット行事	クレープを作り、楽しむ	ふじ	ユニット
8/24	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼きを実施。	もみじ 「海鮮焼き」	もみじユニット ト食堂
8/27	外出	外出し買い物を楽しむ	きく	しまむら
8/27	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼きを実施。	ゆり 「ハンバーグ」	ゆりユニット 食堂
8/28	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼きを実施。	きり 「豚肉、海鮮」	きりユニット 食堂
8/29	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ふじ	ジョナサン
8/30	鉄板焼き	各ユニットで違う具材の鉄板焼きを実施。	ふじ 「ハンバーグ」	ふじユニット 食堂
9/10	外出	外出し買い物を楽しむ	ふじ	ヤオコー
9/15	敬老会	家族とともに行事食を召し上がり、長寿を祝う。	2階、3階	中央ホール ユニット
9/18	外出	外出し買い物を楽しむ	ゆり	ベルク
9/20	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	喫茶はな
9/21	外出	外出し買い物を楽しむ	もみじ	ヤオコー
9/26	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きく	ジョナサン
9/28	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きり	喫茶はな
10/16	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	喫茶はな
10/16	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きり	喫茶はな
10/18	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	もみじ	不二家
10/19	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きく	ジョナサン
10/24	外出	おやつを食べる。	ゆり	貝塚公園
10/29	外出	外出し買い物を楽しむ	ふじ	ヤオコー
10/29	寿司バイキング	昼食時にいくつかのネタの中から好きなネタを選んで食べる。	2階、3階	各ユニット食 堂
11/12	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	ゆり	ジョナサン

11/19	鍋行事	昼食時、ユニット毎に違う具材の鍋を楽しむ ・すき焼き、鶏ちゃんこ、石狩鍋	2階	各ユニット食堂
11/20	外出	外出し買い物を楽しむ	もみじ	しまむら
11/21	ユニット行事	焼き芋を作りを通して、季節を感じる。	もみじ	園庭 ユニット
11/26	鍋行事	昼食時、ユニット毎に違う具材の鍋を楽しむ。 ・すき焼き、鶏ちゃんこ、石狩鍋	3階	各ユニット食堂
11/26	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きく	不二家
11/27	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	きり	不二家
11/28	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	ジョナサン
11/28	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	もみじ	鯉清
12/14	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	もみじ	ジョナサン
12/15	餅つき	家族とともに餅をつき召し上がる。 行事食（お餅5種類、けんちん汁、漬物、リンゴコンポート、パイナップル）	2階、3階	中央ホール ユニット
12/18	外出	嗜好品を選び、外食を楽しむ	さくら	不二家
12/25	クリスマス会	ケーキを召し上がり、歌をうたう。 行事食（オムライス、コンソメスープ、スモークチキン、テリーヌ、ブロッコリーサラダ、トマトゼリー、フルーツポンチ）	2階、3階	中央ホール ユニット
12/31	年越し蕎麦	年越しそばを召し上がる。	2階、3階	ユニット
1/1	お正月	元旦（雑煮、五目豆腐、ほうれん草海苔和え、大根の金平） 昼食（赤飯、赤出汁、錦玉子と煮ごり鯛の子、紅鮭昆布巻、栗金団とお多福豆、割竹雲丹テリーヌ、鶏松風焼、海老旨煮、里芋、蓮根、梅人	2階、3階	各ユニット

		参、漬物		
1/12	新年会	家族とともに行事食を召し上がり、新年を祝う。(バイキング行事食)	2階、3階	中央ホール ユニット
2/3	節分	豆まきを行い、諸行事を楽しむ。	2階、3階	ユニット
2/5	寿司バイキング	昼食時にいくつかのネタの中から好きなネタを選んで食べる。	2階、3階	各ユニット食 堂
3/3	ひな祭り	ひな飾りの雰囲気の中、歌をうたい、写真撮影、行事食を楽しむ。	2階、3階	ユニット

4 会議・委員会

会議・委員会では、2階、3階の職員より1～2名の委員会を担当、各リーダー、委員長を中心に、2ヶ月に1回の会議を開催しました。業務内容及び提供をするサービス内容、企画を通して引継ぎをし、介護業務におけるサービスの統一を心掛けていきました。

会議・委員会

会議名	開催日	委員会名	開催日
課長会議	第1水曜	排泄委員会	奇数月・第2水曜
主任会議	第2・4水曜	整容委員会	奇数月・第3水曜
リーダー会議	第2金曜	入浴委員会	奇数月・第4水曜
ワーカー会議	第1火曜(2階)	安全委員会	偶数月・第2水曜
	第1水曜(3階)	食事委員会	偶数月・第3水曜
ケース会議	毎週木曜	広報委員会	偶数月・第4水曜
防災会議	第1金曜		

(1) 安全委員会

総括として

むさしの「身体拘束ゼロへの継続」、利用者の安心・安全・安楽に過ごせる介護サービスの提供をしていきました。毎月最終月曜日には身体拘束検討会議を設け、各セクションの職員が参加することで共通認識をもち日々の業務に生かせるようにしていきます。また、「言葉の拘束」について、周知されていない部分があります。利用者の方へ名字で呼ぶことは浸透してきましたが、来年度は声のかけ方・工夫をすることで、利用者中心での生活援助に取り組んでいきます。

ヒヤリハット報告書の内容を確認、引き継ぎをすることで事故防止に努めてきましたが、反省点を生かせず同じ事故が繰り返し発生しました。年間を通して安全委員会の積極的な活動により事故を未然に防ぐことで事故減少を目標とし、確実な引き継ぎを行っていきけるようにしていきます。

ヒヤリハット報告の月別状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	20	11	19	18	20	22	16	24	19	13	14	15	211

<考察>

昨年より2件減少というあまり変化のない結果になりました。ヒヤリハットは、ひと月に1ヶタ（10件以下）を目標としてきたが、最低でも5月の11件であり報告件数の減少に向けてますますの努力が必要です。4月は年度の変わり目であり、新入職員も多いため、ヒヤリハットの件数が増加したと考えられます。リスクの高い利用者への対応については職員間のコミュニケーションでの引継ぎ、委員会からアプローチをすることが減少へつながるのではないだろうかと考えます。11月は24件と年間での最多報告件数になるが、入所利用者・ショート利用者ともに同一利用者の同じ事故の報告が続いたため引き継ぎが不十分であり、個別対応が把握できていなかったことがあげられます。

ヒヤリハット報告の発生場所別状況

	居室	食堂	浴室	トイレ	廊下	ホール	テラス	その他	合計
ふじ	12	13	0	5	3	6	0	2	41
ゆり	7	10	1	2	0	1	2	0	23
きく	5	8	1	0	1	3	0	0	18
さくら	9	8	0	2	2	0	0	2	23
きり	19	17	1	2	4	5	0	4	52
もみじ	12	12	0	2	3	5	0	1	35
デイ	0	1	5	1	1	2	0	9	19
合計	64	69	8	14	14	22	2	18	211

<考察>

2階・3階ともに居室や食堂での事故が多くありました。昨年と比較すると居室は19件減少、トイレは8件増加となっています。2階ではふじユニットでの事故が多く、所在確認の必要な方・安全への見守りが必要な方が集まるためと考えられます。しかし、常に職員がいるユニットであり、再度リスクの高い方への対応を徹底することで事故を未然に防ぎ、来年度は事故件数の減少につなげていきます。3階ではきりユニットでの事故が多く、今後2階のふじユニット配置変更を取り入れ、きりユニットかさくらユニットにて待機への対応方法を取り入れ、安全への取り組みをしていきます。

ヒヤリハット報告の事故区分別状況

	対人関係	転倒	転落	誤嚥	所在不明	その他	合計
ふじ	0	34	3	0	0	5	42
ゆり	2	12	5	2	0	2	23

きく	2	12	1	0	0	4	19
さくら	0	14	6	1	0	2	23
きり	0	25	15	0	3	8	51
もみじ	0	16	8	1	0	10	35
デイ	0	7	1	0	0	10	18
合計	4	120	39	4	3	41	211

<考察>

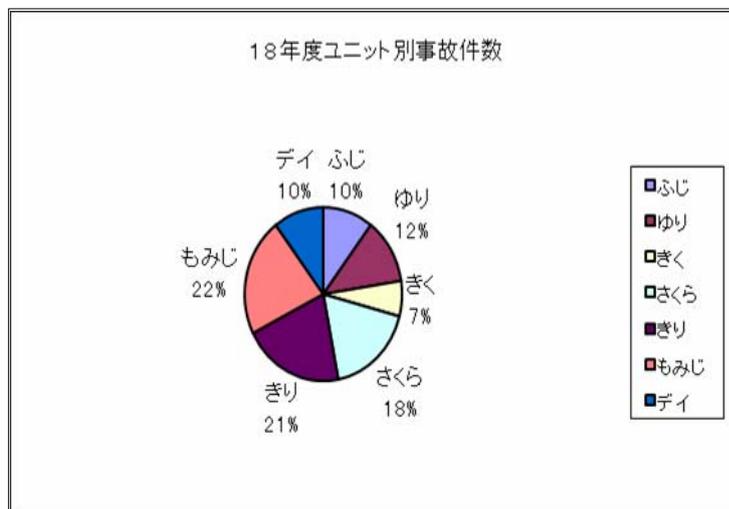
転倒120件と最も多く、今年度の事故件数の約6割を占めています。昨年と比較すると44件の増加になり、転落は26件の減少、対人関係は13件減少となっています。状況としては、同じ事故への引継ぎができていないことがあげられますので、この件を十分反省して来年度は引継ぎに力をいれていきます。

ふじユニットでの転倒が多いことから、職員は常にいるが1人では対応しきれない可能性があり、居室にて個別ケアをしている間に食堂での転倒など、見守りを行うことができない場合が推測され、他ユニット職員との連携を図ることで、見守りの必要な利用者を分散してケアする必要があります。転落については、離床センサーの設置やベッドから和床対応へ変更するなど利用者個人にあったケアを行うことが出来た成果だと思えます。

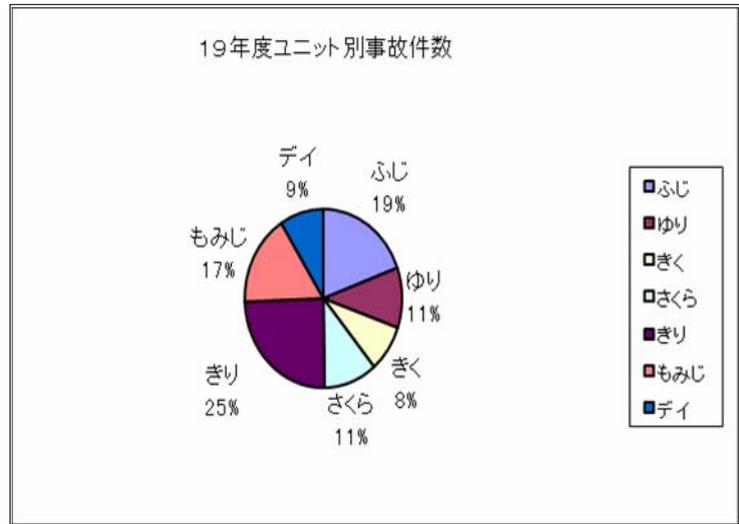
・前年度との比較について

ヒヤリハット報告のユニット別事故件数について

18年度ユニット別事故件数	
ユニット	事故件数
ふじ	22
ゆり	26
きく	14
さくら	38
きり	44
もみじ	47
デイ	22
合計	213

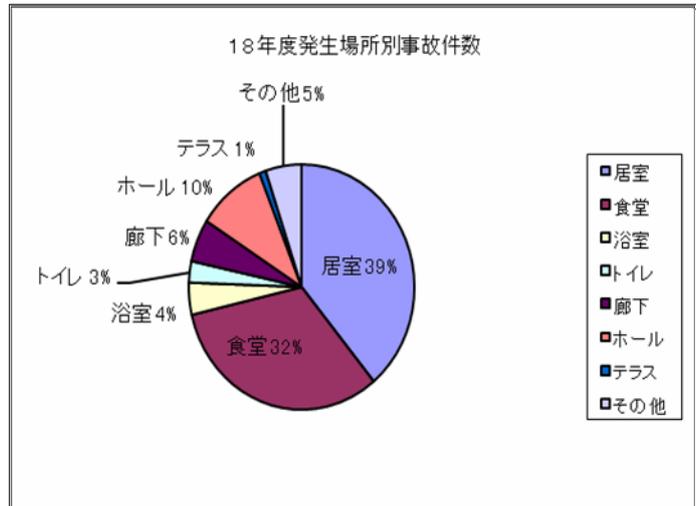


19年度ユニット別事故件数	
ユニット	事故件数
ふじ	41
ゆり	23
きく	18
さくら	23
きり	52
もみじ	35
デイ	19
合計	211

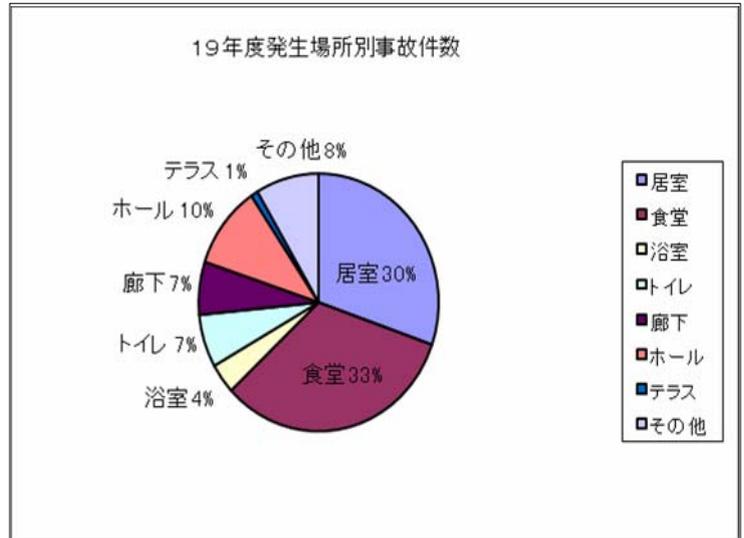


ヒヤリハット報告の発生場所別事故件数について

18年度発生場所別事故件数	
発生場所	事故件数
居室	83
食堂	69
浴室	9
トイレ	6
廊下	12
ホール	21
テラス	2
その他	11
合計	213

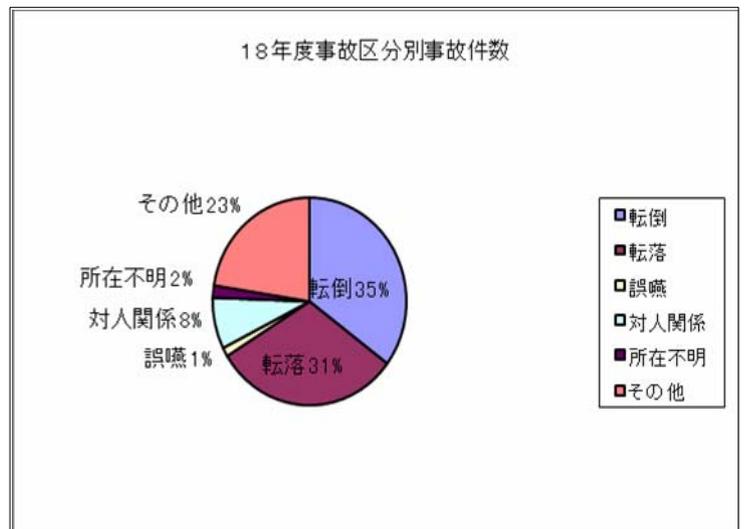


19年度発生場所別事故件数	
発生場所	事故件数
居室	64
食堂	69
浴室	8
トイレ	14
廊下	14
ホール	22
テラス	2
その他	18
合計	211

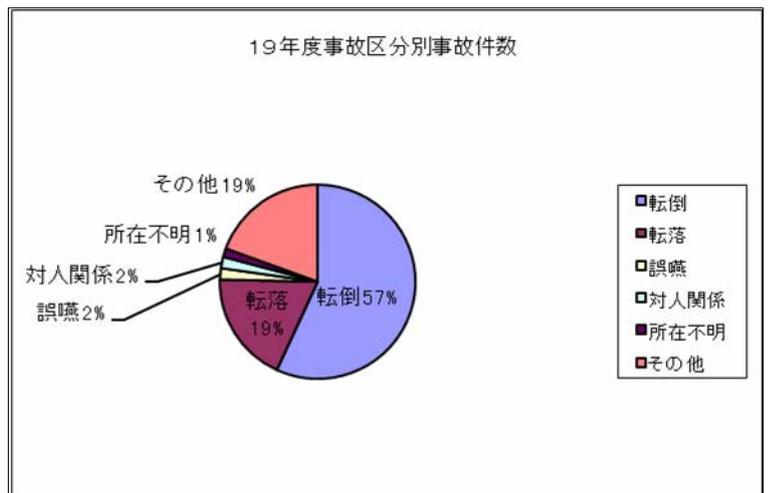


ヒヤリハット報告の事故区分別事故件数について

18年度事故区分別事故件数	
事故区分	事故件数
転倒	75
転落	66
誤嚥	3
対人関係	17
所在不明	4
その他	48
合計	213

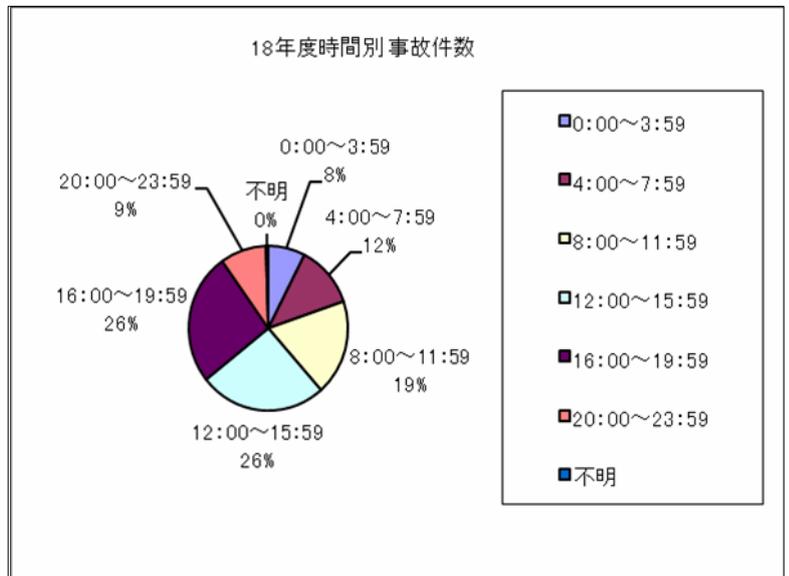


19年度事故区分別事故件数	
事故区分	事故件数
転倒	120
転落	39
誤嚥	4
対人関係	4
所在不明	3
その他	41
合計	211

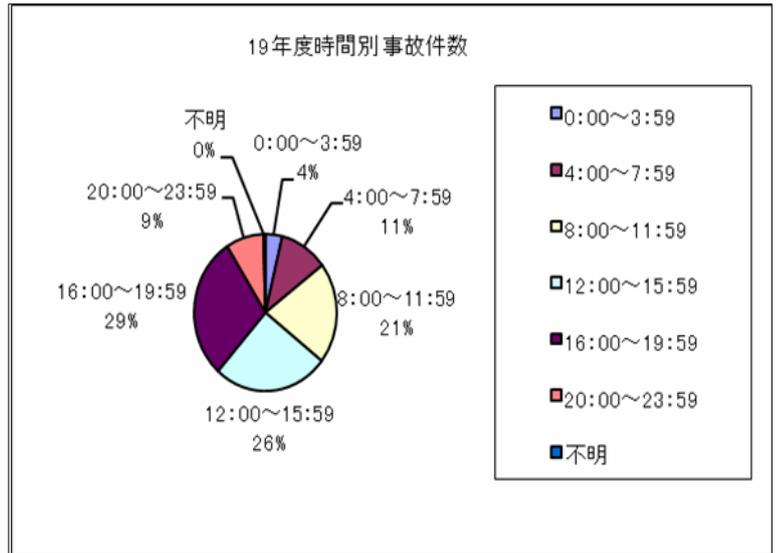


ヒヤリハット報告の時間別事故件数について

18年度時間別事故件数	
発生時間	事故件数
0:00~3:59	16
4:00~7:59	26
8:00~11:59	40
12:00~15:59	55
16:00~19:59	55
20:00~23:59	20
不明	1
合計	213



19年度時間別事故件数	
発生時間	事故件数
0:00～3:59	8
4:00～7:59	23
8:00～11:59	44
12:00～15:59	55
16:00～19:59	62
20:00～23:59	18
不明	1
合計	211



安全・安心な生活援助を目標に取り組んでいきましたが、年間211件のヒヤリハット報告がありました。10件以下を目標に事故に対して会議・連絡ノート・サイボウズでの引き継ぎをしましたが、同じ事故が続くことがあり職員に周知・引き継ぎが出来ていないことがありました。年間を通して、安全委員会が積極的に活動により事故減少の目標と職員間の連携・業務の中でコミュニケーションを取り引き継ぎをしていき、来年度は利用者・職員が安全への周知ができるように取り組んでいきます。

(2) 食事委員会

総括として

- 1 食事提供だけでなく、食事への楽しみ大切さを考えて行事食・バイキング食をより多く設け、引き続き適温での食事提供や利用者状況（生活機能にて嚥下、咀嚼の低下）を介護職員、栄養課と連携し利用者個々の食事摂取量・状況の確認、低栄養の予防・状態にならないように食事へのアプローチをしてきました。各課の方針の違いにより食事形態への意見が食い違ってしまう面もありましたが、食事におけるサービスへの質の向上、業務効率を高めていきました。これに満足することなく、来年度も嗜好調査を基に、利用者の選択・満足ができる新たな食事のサービス提供ができるよう取り組んでいきます。
- 2 キッチン内の清潔保持については、清掃や整理が不十分なことも見られるが引き続きキッチンの清潔保持への意識を高め定着するように取り組んでいきます。

(3) 排泄委員会

総括として

- ・個別排泄プログラムについて

目標の個別ケアでは、排泄方法の見直しを行ってきました。排泄介助では、各利用者に合った排泄時間・方法の見直しを行いました。年2回の尿量計測を実施し、尿量に合ったパットを選別し、予防するだけでなく、利用者が使用時に不快感を軽減することができました。排泄回数の見直しにより、排泄に関わる利用者の羞恥心への取り組み、各担当に排泄状況を確認し、委員会で分析・検討していくことができました。

① 排泄における自然排泄の援助について

自然排泄・おむつ外しにつながる援助方法を考え、トイレ誘導、ポータブルトイレ誘導を取り入れた介助方法を検討してきました。座位が取れる利用者に、トイレ誘導、ポータブルトイレ誘導を行いましたが、排便のパターンが掴めず、下剤の服用に頼る事が多くみられました。今後の課題として、排泄データの収集をしていくと共に、下剤の調整では看護、食事・飲水量の確保の面では栄養課、排泄しやすい姿勢を考えた誘導方法に関してはリハビリというように、関係課との連携を行い、自然排泄が行えるよう検討していく事が必要となりました。また臀部発赤、皮膚疾患予防に取り組んできましたが、軟膏に頼るだけでなく、細かい体位交換の実施や、オムツの使用法の検討を引続き行っていきます。

② 委員会活動について

排泄表の見直しを行い、困難処遇については、紙オムツ業者のアドバイザーと協力し、問題解決を行ってきましたが、今後も継続して問題解決にあたる時は、より個別ケアができるよう排泄状況・環境整備への見直しを行っていきます。

(4) 入浴委員会

総括として

- ・安楽な入浴について

利用者のADL、体調、状態に合わせてその利用者への入浴サービス提供に取り組みました。前年度に比べて、ひのき（一般浴槽）・カトリア浴（座位式浴槽）の人数の増減はみられませんでした。ロベリヤ浴（寝台式浴槽）については利用者の身体的な状況・重度化により人数が増える傾向があります。引続き、入浴の見直し入浴日の検討をして個々の入浴サービスの提供に取り組んでいきます。

平成18年度入浴状況

	月曜日・木曜日 (ロベリヤ・カトリア)	火曜日・金曜日 (ひのき)	水曜日・土曜日 (カトリア)
2階 午前	ロベリヤ2名(合同)	ひのき10名	カトリア6名

2階 午後	カトレア6名	ひのき6名	カトレア5名
3階 午前	ロベリヤ4名(合同)	ひのき5名	カトレア6名
3階 午後	カトレア7名	ひのき6名	カトレア7名
計(70名)	ロベリヤ6名 カトレア13名	ひのき27名	カトレア24名

平成19年度入浴状況

	月曜日・木曜日 (ロベリヤ・カトレア)	火曜日・金曜日 (ひのき)	水曜日・土曜日 (カトレア)
2階 午前	ロベリヤ3名(合同)	ひのき 8名	カトレア 6名
2階 午後	カトレア5名	ひのき 8名	カトレア 6名
3階 午前	ロベリヤ6名(合同)	ひのき 6名	カトレア 6名
3階 午後	カトレア6名	ひのき 7名	カトレア 4名
計(71名)	ロベリア 9名 カトレヤ 11名	ひのき 29名	カトレア22名

- ・音楽、環境作りについて

2階では観葉植物の設置、3階では装飾を行い、カトレヤ浴槽に防水時計の設置し浴室の雰囲気を変えて利用者の方に違った気分で入浴ができるように環境整備をしました。今年度も、四季折々に環境を変えていき、利用者の方が気持ち良く入浴サービス提供に取り組んでいきます。

- ・変わり浴について

利用者様に季節感を感じていただけるように、5月に菖蒲湯、12月に柚子湯のサービス提供を実施しました。

- ・入浴札の作成について

入浴準備の効率化を図る事を目的に、また入浴後に利用者の方を待たせてしまう事のないように使用する下着類(パット等)を記入した表を作成し統一のケアが出来るようにしました。

- ・残留塩素測定について

入浴前に残留塩素測定を実施しました。毎月の測定記入の確認を継続し今後も感染症予防をしていきます。

(5) 整容委員会

総括として

前年度と同様、介護業務に時間を要する事が多く、ワーカー内に環境整備に対する意識を十分に高めることが出来ませんでした。生活の場として使用している食堂の床やテ

ーブル上の清掃に関しては食後、職員内で周知し清潔保持を心掛けました。また、居室床の清掃においても今年度より週 1 回の清掃日を設けた事によって清潔保持が出来ましたが環境整備面での引継ぎが不十分なこともみられました。また、居室戸棚の整理や戸棚の上の清掃等の環境整備、細部までの清掃に取り組むことができませんでした。上記により、比較的外部から目が付き易い箇所の清掃、又は、業務内に組み込まれている環境整備において取り組みましたが、居室担当やユニット担当等、個々で行う箇所における環境整備が不十分であったと認識しています。今後、担当職員の居室制の検討をしていく中で、担当者が責任を持って居室の環境整備を施行していけるように活動をしていきます。リネン交換においては週 1 回の交換が出来ました。しかし、交換後の汚染されたシーツの持ち運びにおいて、飛沫感染が予測されている物品の移動に関しては対策を考え、今後の課題にしていきます。

(6) 広報委員会

総括として

行事紹介、介護用語などを通年して掲載しましたが、広報発刊から 3 年程が経ち内容・形式とも定型化、画一化がみられるため、9 月に広報職員アンケートを実施し沢山の意見・批評・提案を頂きました。これらを委員に周知し、意見交換を行い、今後の新たな取り組みの具体的なビジョンを共通認識のものとししました。また、委員間の報告・連絡・相談をより密にすると共に委員としての自覚・責任感を促し、より充実した広報誌作り、活動をしていきます。

①発行回数について

年 4 回 5・6・7 (夏号) 8・9・10 (秋号) 11・12・1 (冬号)
2・3・4 (春号)

看護

1 健康管理・健康観察

利用者の日常生活におけるバイタル測定、食事摂取量、排泄記録に基づきながら、介護職員との連絡・引き継ぎを蜜にとり疾病への早期発見に努めました。前年度引き続き、軽症においては施設内で処置をし、また、状況に応じて協力病院（篠田中央クリニック、みずほ台病院、その他）に連絡をとり受診しました。

2 内科、外科（篠田中央クリニック：院長）、精神科（篠田中央クリニック：医長） 歯科（てらおファミリー歯科：院長）、回診を診察室、居室にて行いました。また健康診断を 19 年 5 月 23 日に実施し、入所利用者の健康管理をしていただきました。

内科・外科回診 毎週火曜 14：00～16：00

精神科回診 隔週木曜 11：30～12：30

歯科回診 毎週金曜 10:00~16:00

回診日	内・外	歯科	精神科	回診日	内・外	歯科	精神科	回診日	内・外	歯科	精神科
4/3	18			8/3		30		12/5			3
4/4			3	8/6	20			12/7		41	
4/6		25		8/9			4	12/11	19		
4/10	15			8/10		27		12/14		44	
4/13		26		8/13	21			12/18	20		
4/17	23			8/17		27		12/19			4
4/18	26		1	8/22	25		2	12/21		46	
4/20		25		8/28	16			12/25	36		
4/27		26		8/31		27		12/28		45	
5/1	21			9/4	21			1/8	22		
5/2			6	9/5			4	1/9			4
5/8	18			9/7		29		1/11		47	
5/11		27		9/11	30			1/15	19		
5/15	23			9/14		27		1/18		42	
5/16			5	9/18	19			1/22	19		
5/18		25		9/19			3	1/23			5
5/22	19			9/21		30		1/25		42	
5/25		25		9/25	14			1/29	21		
5/29	20			9/28		30		2/1		43	
6/1		26		10/2	17			2/5	22		
6/5	16			10/3			2	2/6			7
6/6			5	10/5		34		2/8		42	
6/12	19			10/9	20			2/12	24		
6/15		26		10/12		33		2/15		44	
6/19	19			10/16	22			2/19	17		
6/20			7	10/17			2	2/20			6
6/22		26		10/19		36		2/22		44	
6/26	18			10/23	17			2/26	22		
6/29		27		10/26		35		3/4	20		
7/3	16			10/30	18			3/5			4
7/4			3	11/2		38		3/7		47	

7/6		27		11/6	23			3/11	22		
7/10	19			11/7			3	3/14		45	
7/13		28		11/9		34		3/18	20		
7/17	20			11/13	24			3/19			4
7/18			3	11/16		41		3/21		44	
7/20		29		11/20	18		5	3/25	20		
7/24	19			11/27	21			3/28		45	
7/27		29		11/30		39					
7/31	13			12/4	19						
								合計	1,020	1,475	95

年間を通して内・外科回診1,020人、歯科回診1,475人、精神科回診95人の利用者が施設内にて受診しました。

内・外科回診、精神科回診では、前年度より17人の増加になりますが、利用者の重度化にともない、今後も増加傾向が予測されますが、日々の生活支援の中で、早期発見につながるように健康観察をしていきます。精神科回診では、利用者・ご家族との連絡を密にして日々の変化を連絡・報告をして、利用者が安全・安心に過ごせるように精神科回診を受診しました。歯科回診では、歯科衛生士による口腔ケアをご家族確認にて行い、前年度に引き続き、誤嚥性肺炎の予防に効果をあげることができました。

入退院一覧

氏名	入院日	退院日	入院日数	病名	病院名	搬送方法		備考
						施	救	
D	4/3	4/11	9	急性肝炎 総胆管結石	篠田中央クリニック	○		
K	4/8	6/30	84	脳梗塞	南古谷病院		○	退所
O	4/30	6/5	37	肺炎	上福岡総合病院	○		
K	5/6	5/11	6	胃腸炎	篠田中央クリニック		○	
O	5/16	5/25	10	肺炎	篠田中央クリニック	○		
N	5/17	6/14	29	呼吸不全	みずほ台病院		○	退所
Y	5/22	5/24	3	急性心不全	みずほ台病院	○		永眠
M	5/25	6/4	11	敗血症	篠田中央クリニック	○		
T	5/29	6/8	11	肺炎・尿路感染	篠田中央クリニック	○		
A	5/30	6/18	20	呼吸状態不良	みずほ台病院		○	
M	6/6	6/25	20	低血糖	篠田中央クリニック	○		

O	6/8	8/24	78	誤飲性肺炎	上福岡総合病院	○		永眠
D	6/15	6/29	15	総胆管結石	みずほ台病院	○		
O	6/18	9/14	89	肺炎	鶴瀬病院	○		
I	6/23	8/17	56	脳梗塞	篠田中央クリニック		○	
M	7/1	7/1	1	右肺の腫瘍より 気道閉塞	南古谷病院		○	永眠
I	6/7	8/2	57	右上腕、左大腿部 頸部骨折	上福岡総合病院	○		
S	7/6	7/13	8	尿路感染	篠田中央クリニック	○		
K	7/11	9/27	79	肺炎	南古谷病院	○		退所
A	7/16	7/16	1	心肺停止	南古谷病院		○	永眠
I	7/20	8/2	14	呼吸状態悪化	篠田中央クリニック	○		永眠
M	8/8	8/8	1	呼吸不全	篠田中央クリニック			永眠
Y	8/11	9/5	26	喘鳴	篠田中央クリニック	○		
T	9/5	10/29	55	心筋梗塞	国立さいたま病院		○	退所
A	9/14	9/21	8	尿路感染・嘔吐 熱発	鶴瀬病院	○		
N	9/15	9/18	4	下腹部痛	篠田中央クリニック	○		
I	9/17	10/29	43	肺炎	新座志木中央病院	○		退所
O	9/23	10/4	12	吐血	埼玉医科大学総合医 療センター		○	
I	10/5	11/4	31	急性心不全・肺炎 脳梗塞症	篠田中央クリニック		○	永眠
T	10/5	11/4	1	心肺停止	国立さいたま病院		○	永眠
I	12/7	1/4	29	老衰	篠田中央クリニック	○		永眠
D	1/7	1/16	10	老衰	篠田中央クリニック	○		永眠
S	1/25	2/8	15	蜂窩織炎	篠田中央クリニック	○		
O	1/25	2/8	15	腸閉塞	篠田中央クリニック	○		
W	2/1	2/22	22	急性胃腸炎	篠田中央クリニック	○		
T	2/13	2/22	10	誤飲性肺炎	篠田中央クリニック	○		
W	2/25	3/21	26	呼吸不全	篠田中央クリニック	○		
E	2/26	2/29	4	検査入院	鶴瀬病院	○		

S	3/18	3/28	11	肺炎	篠田中央クリニック	○		
合計			972			28	11	

年間を通して延べ972人の利用者が入院をしました。1日平均をして2.66人が入院をしていることとなります。利用者の重度化から長期入院の利用者が増えたこと、早期発見・早期治療を心がけから入院が増えたことが原因として考えられます。搬送方法は施設においては昨年より3人の減少がありました。救急車での搬送は利用者の早期発見・早期治療への取り組みから6人の減少がみられました。来年度も利用者の健康管理・健康観察に取り組んでいきます。

3 感染症対策

1月に感染性胃腸炎に8名程の利用者が感染をしました。嘱託医、産業医の先生から助言をいただき、他職種と共同で対応策を考え予防への対応の実践をしました。職員一人一人に書面での引き継ぎ、利用者の状態変化に伴う引き継ぎを他職種で行い、感染者はいなくなりました。感染予防は職員一人一人が確実にいき、二次的な発生、感染者にならないように来年度は予防対策に力を入れていきます。また、日々の生活の中で感染症が予測されることに対しては、他職種・委員会に積極的に引き継ぎ、実践をしていき感染への早めの察知をしていくことで、感染の予防・拡大を防いでいきます。

機能

1 機能訓練

利用者個々のADL評価・ケアプランを基に、生活環境に密着した心身機能・身体構造、活動能力を活かせるよう機能訓練やマッサージを提供した。また、現状では散歩の導入にとどまっているが、参加へのアプローチを行うことにも着手できた。医師・歯科医師の指示の下、医学的リハビリテーションも提供していきました。

2 アクティビティ

浦和大学浦尾助教授により種々活動についてアドバイスをいただいたが、機能訓練のニーズが高く、十分成果をあげることができなかつた。しかし、棒体操、歌体操、手遊び等、集団に対してのアクティビティを提供することができた。

来年度の課題として、個別のアクティビティの導入を勧めていくことを挙げる。

3 介護方法の検討

利用者各個人の身体状況に応じた介助方法の検討を行った。介護スタッフとの連携において、動作面、環境面での長所、短所をアセスメントし、各利用者に適した介助方法を提供することができた。

4 介護予防

予防給付における運動機能向上プログラムとは意味合いが若干違うが、心身機能・身

体構造レベルの維持・改善を促す目的で機能訓練を施行したが、これが現状の介護状態を悪化させることを防ぐことに繋がっていくものであり、頻度の高い機能訓練により、これを提供できたものとする。

5 リハビリテーション実施計画書

理学療法士がこれを作成し、オンラインにより各スタッフがチェックするシステムで、実施計画書（日々の評価、プログラム、提案等も記載）が活用された。

機能訓練の実施状況

機能訓練は1月延べ200名を目標としたが、おおそこれを達成することができた。

2007年	日数	2F	3F	デイサービス	短期入所	計
4月	21	30	167	0	15	212
5月	23	26	187	0	24	237
6月	21	32	177	0	18	227
7月	22	48	157	0	16	221
8月	23	45	157	0	1	203
9月	20	58	140	0	1	199
10月	23	72	133	0	5	210
11月	22	58	146	0	12	216
12月	21	65	131	0	4	200
1月	23	101	105	0	10	216
2月	21	88	127	0	3	218
3月	21	92	96	0	15	203
計	261日	715人	1,723人	0人	124人	2,562人

1日平均約9名実施

以上の事項を理学療法士（非常勤）1名と機能訓練指導員（常勤）1名で実施した。

相談

1 相談援助

昨年度に引き続き、契約書・重要事項説明書の内容を基に利用者・家族への相談援助を行いました。今年度は、特に家族との関係を意識し、来施の際や電話連絡等を通して意志疎通が出来るように努力してまいりました。利用者の体調不良や病院受診時・外出行事の参加等々の連絡・報告や家族からの相談を記録として、施設介護情報システムを使用し介護明細にて記録として残しました。来年度も引き続き、相談援助を実施記録

を残し、気軽に相談ができるよう体制を築き、日々の相談業務の中で優先順位として相談・内容の重要性、緊急性を考えることで相談機能の強化につなげていきます。

2 入所について

(1) 入所相談

入所相談の際には重要事項説明書を基に、むさしのでの援助内容・方針、料金体系を中心に説明しました。希望者へは施設内見学を実施し、実際の生活風景・雰囲気を感じて頂き納得、理解された上で、入所申し込みをして頂けるように対応いたしました。また、入所判定会議の対象となる利用者・家族へも重要事項説明書を基に再度利用料・施設での処遇内容を説明し、納得して頂いてから入所の案内を心掛けました。

(2) 判定会議

今年度は年間 2 回の入所判定会議を開催しました。昨年に引き続き、イントラネット上の入所判定会議申し込み名簿を活用し進めてまいりましたが、年間を通じて空床期間が 266 日ありました。夏の時期の空床が顕著にみられました。受入れについては専門職としての外部調整の役割、内部調整への確実な引き継ぎをし、可能な限りショートステイの受け入れに努め、緊急での利用にも柔軟に対応いたしましたが、十分に補填するまでには及びませんでしたので、今後の課題としていきます。

入所申込者の環境・状態変化もあり連絡が難航したため、来年度は申し込み名簿の整理を進めていき、円滑に入所判定会議が実施できるようにしていきます。また、一度退所された方の再入所や市役所からの措置入所もあり、幅広い形での入所が実施されたことは経験の蓄積になりました。

・ 19年度入所・退所

退所者	退所年月日	理由	入所者	入所年月日	判定会議	空床期間
1	H19.4.5	長期入院	1	H19.4.17	H18.12.15	11
2	H19.5.24	死亡	2	H19.6.11	H19.2.26	18
3	H19.6.14	死亡	3	H19.6.29	再入所	14
4	H19.6.30	長期入院	4	H19.7.9	H18.12.15	9
5	H19.7.1	死亡	5	H19.7.10	H18.12.15	8
6	H19.7.16	死亡	6	H19.8.28	H19.8.22	43
7	H19.8.2	死亡	7	H19.9.3	H19.8.22	32
8	H19.8.8	死亡	8	H19.9.10	H19.8.22	33
9	H19.8.24	死亡	9	H19.9.24	H19.8.22	31
10	H19.9.27	長期入院	10	H19.10.4	H19.8.22	7
11	H19.10.29	長期入院	11	H19.11.7	H19.8.22	9

12	H19.10.30	死亡	12	H19.11.12	H19.8.22	13
13	H19.11.04	死亡	13	H19.11.26	H19.11.15	21
14	H20.1.4	死亡	14	H20.1.15	H19.12.21	10
15	H20.1.16	死亡	15	H20.1.24	H19.12.21	7
			16	H20.2.6	措置入所	0
						266

3 マンパワーの育成

昨年の状況を引き継ぎながら、実習生・ボランティアの受け入れを実施してまいりました。具体的には、社会福祉士養成コースの実習生、教職課程の介護等体験の学生、そして、地域の小学生による総合学習や他施設職員の研修の場として、受け入れを実施いたしました。また、余暇活動のボランティア団体や生活援助の個人ボランティアの受け入れを行い、納涼祭・もちつき行事ではご家族のボランティア参加もあり、地域における多数の方々の協力を得ることが出来ました。

ボランティア保険については、今年度学生の個人ボランティア 1 名のみの加入状況でした。来年度は、年度当初よりボランティア保険の加入を勧め、安心して活動して頂けるように支援してまいります。

ボランティア講座に関しては、今年度は富士見市社会福祉協議会より要請がないため、開催にはいたりませんでした。来年度以降、要請に基づいて、開催の検討をしてまいります。

<受け入れ実績>

○実習生

- ・社会福祉士養成
 - 浦和大学 2 年生 19 名
 - 浦和大学 3 年生 1 名
 - 東京福祉保育専門学校 1 名
 - 東洋大学 3 年生 1 名
- ・介護等体験 9 名
- ・早稲田大学大学院 1 名

○総合学習

- ・南畑小学校 5 年生 8 名
- ・南畑小学校 3 年生 5 名

○特別養護老人ホーム ころろ三芳研修生 12 名

○ボランティア

・生活支援ボランティア

清拭たたみボランティア 1名（毎週火・金曜日）

夕食後片付け・シーツ交換・掃除ボランティア 1名（高校生のため不定期）

・クラブ活動ボランティア

クラブ名	活動日	回数
書道クラブ	毎週水曜日	50回
カラオケクラブ	毎月第1金曜日	11回（新年会参加）
お茶クラブ	毎月第4木曜日	12回（初釜実施）
大正琴クラブ	毎月1回	9回
演芸クラブ	隔月1回	6回（納涼祭参加）
音楽クラブ	毎月2・4金曜日	22回（クリスマス会参加）
ハーモニカクラブ	3ヶ月1回	4回
エレキクラブ	3ヶ月1回	4回
民謡クラブ	6ヶ月1回	3回（新年会参加）
落語クラブ	随時	1回
手品・マジッククラブ	随時	2回

・行事ボランティア

納涼祭（模擬店・演芸等） 53名

もちつき行事 20名

敬老会 パピヨン歌謡教室 6名

4 日用品、衣類の取り揃え

開所より5年目を迎え、利用者の日用品・衣類の劣化もみられるため、2月に担当ワーカーにて確認し、3月利用料請求時に家族へ依頼しています。まだ、劣化している衣類・日用品もあるため、引き続き家族への依頼、衣替えのお知らせを実施してまいります。

5 要望及び苦情を提案に

利用者懇談会は、各階12回づつ開催し、計24回開いています。奇数月に開催していましたが、年度後半1・3月に開催が困難であったため、来年度の課題として取り組んでいきます。オンブズマンによる相談は毎月12回開催し、家族懇談会について1回の開催になりました。

地域課

デイサービスセンターむさしの

平成19年4月、昨年見送りとなっていた介護予防給付がいよいよ開始となり、当事業所においても、既存の通所介護サービスに加え、介護予防通所介護サービスの対象者を受

け入れることになりました。新体制導入と同時に近隣において複数の施設が次々とオープンしていく中、利用者が確保していけるか、増加できるかという不安を抱えながらのスタートでした。今年度は、これまで施設の方針として推進してきた個別ケアを、他施設にない独自のサービスとして前面に押し出し、利用者や事業者を選んでもらえるようにと努めました。また前年度に引き続き、希望者の無料体験利用や見学を積極的に受け入れ、サービス内容をアピールした結果、前年度以上に利用者獲得に功を奏し良い結果につながったように思います。

1 デイサービス運営状況

(1) 通常規模型事業所として運営

- ・今年度は昨年度の実績から、事業区分が通常規模型に変更となりました。

	18年度	19年度		18年度	19年度
年間稼働日数	313日	313日	延日数月平均	382.8	470.5
年間利用延日数	4,594日	5,200日	利用率月平均	(定員25名 で計算) 58.7%	(定員25名 で計算) 72.9%

① 運営日

- ・月曜日から土曜日の週6日間の運営を実施。

(年未年始のみ12月30日～1月3日の間運営を休止)

昨年度と稼働日数は同じでしたが、利用延べ日数は年間606日増加、月平均50.5日増加、日平均1.9日増加しました。

- ・土曜日は職員4人体制で運営。秋頃から年明けには20人近くまで利用者が増加しましたが、その後また徐々に自然減少があり、年度末には15人以下の利用日が多くなりました。その主な理由としては、介護者の都合によりショート利用を増加、季節的に病気で体調をくずして入院や自宅療養となる、在宅生活が継続できなくなり施設入所となるなどが多くあげられます。

② 利用率

- ・昨年度に比べ大幅に平均利用率を上げることができました。

年間の内容をみると8月から9月の猛暑が続いた時期や1月から2月の風邪の流行時には、体調を崩して休む利用者が多く利用率は目に見えて減少していますが、新規利用者を4月から毎月途切れることなく確得できたことが利用率上昇につながったと思われます。

(2) 利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規 利用	3	2	1	1	3	2	4	4	2	0	5	6	33 人
1日 平均	15.9	18.0	18.4	16.9	15.2	16.0	17.3	17.2	17.0	14.4	15.9	16.0	16.6 人
延べ 人数	421	486	480	439	411	400	467	448	441	390	399	417	5199 人

- ・毎月新規の利用者を増やすことができ、常に自然減少があるにもかかわらず利用実績は少しずつ上昇しました。10月以降、利用者が1日20人を超す日も多くあり、最も多い日には24人の利用がありました。

・特養の利用者の受け入れ

昨年度に引き続き月曜日から金曜日の間の午前中、1日1～3人の特養利用者に無償で趣味活動の援助をしました。夏以降は体調や心身の状態変化により利用は1名となりました。この男性利用者は片まひで車いすの生活ですが、デイ職員の援助を受けながら、タイルモザイク画の大作を数か月かけて完成させ、作品展に出品することができました。

(3) 年齢別（3月末現在登録者71名）

- ・80歳代が42名、90歳代が7名と、全体の69%が80歳以上となっています。最低年齢58歳（男性）・61歳（女性）、最高年齢95歳（男性）で全体の平均年齢は81.6歳でした。後期高齢者の数が57名と昨年に比べたいへん多くなっています。

(4) 介護度別（3月末現在登録者71名）

・予防給付

最も多い時は9名でしたが、その後新規利用者が入らず、1名が退所、1名が更新によって介護度が変わり再び介護給付対象となったため、3月末現在7名となっています。

介護給付利用中の利用者においては、更新によって予防給付へ移行する利用者は1人もいませんでした。

予防給付利用者

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
要支1	2	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3
要支2	0	1	1	2	2	5	6	6	5	5	4	4

計	2	2	2	4	4	7	9	9	8	8	7	7
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

・介護給付

介護度1・介護度2の利用者が多くを占めています。これは当事業所のサービスの特徴である個別の趣味活動や創作また自由な過ごし方を求めて利用する人が多く、自然と介護度が軽い利用者になるという特徴を表しています。

平均介護度は1.82でした。

(5) サービス提供時間

- ・今年度から、時間延長サービスの体制を整え、希望があった場合には対応していくことにしましたが、利用料の発生する17:30以降の利用希望はありませんでした。家庭の都合で通常の帰り時間よりも1時間長くサービスしてほしいというケースが年間数件あり、料金と関わりなく対応し感謝されました。

2 事業内容

(1) 送迎サービスについて

利用者が増加するにしたがって、度々送迎体制の見直しを行う必要が生じ、送迎の地域や利用者の負担・効率面を考慮しつつ変更せざるを得ませんでした。2台のワゴンには定員一杯まで乗り、他に2台の軽自動車使用、必要に応じて2便を出すという方法でやりくりをしました。しかし6月に10人乗りワゴンが導入されると、3代のワゴンが使い、しかも新車は独歩の利用者を多く乗せられるため効率よく遠方から近隣へと送迎にまわられるようになりました。ワゴンが増えた分添乗者が必要で、地域課職員や管理課の手を借りることも増え、さらに夏の送迎は体力的・精神的に職員にとってかなりの負担となり、体調を崩す職員もでてしまいました。10月に朝夕の運転専門の職員2名が入职し、少しゆとりを持って送迎が実施できるようになりました。

年間の送迎 延べ実施回数		迎え	送り	計
	18年度	4497回	4546回	9043回
	19年度	5154回	5139回	10293回

(2) 年間行事

月	実施日	行事名	内容	備考
4	3～9日	花見ツアー	・花見外出(市内ドライブ)	山崎公園 周辺土手
5	14～19日	お菓子作り (どら焼き)	・おやつ作りをみんなで楽しむ	デイルーム

6	11～16日	花見外出	・花を観賞し季節を感じ楽しむ。	菖蒲園
7	16～21日 28日	七夕 そうめん流し 納涼祭	・短冊飾りに願いを書き笹飾りを作る。 ・初夏の暑さをそうめん流しで和らげ楽しむ。 ・家族とともに夏のひと時を涼みながら演芸などで楽しむ。手作り作品の販売を行う。	デイルーム テラス 特養と合同
9	17～22日	敬老会 (長寿を祝う会)	・健康と長寿を祝い、園芸やレクで楽しむ。	デイルーム
10	15～20日	花見ツアー 運動会	・コスモス街道を散策し、季節の花を鑑賞する。 ・紅白に分かれて室内競技を行う	寺下堤防 デイルーム
11	15～24日	焼き芋会	・自然に親しみながら珍しい種子島の芋を焼き楽しむ	テラス
12	17～22日 17日	クリスマス会 餅つき会	・ツリーを飾り、みんなでクリスマスケーキを作り楽しむ。プレゼント贈呈 ・餅つきをし交流を深める。	デイルーム デイルーム
1	7～12日	初詣外出	・みんなで神社に初詣に行き、1年の健康と幸せを祈る	針谷神社 三芳天神
2	1～7日	節分 ビデオ鑑賞会	・豆まきで厄をはらい、いろいろな楽しいゲームで体を動かし交流する	デイルーム
3	5～18 作品展出品 祭り見学		・ひな祭り 雛人形を作り懐かしむ ・南畑ふるさと祭りに参加し、手作りの作品を展示、園芸を見て楽しむ。	デイルーム 南畑公民館

(3) 入浴サービス

		一般浴	特浴(リフト浴)	合計
年間延べ入浴者	18年度	3762人	121人	3883人
	19年度	4519人	44人	4563人

・入浴利用のない利用者が男女合わせて数人いましたが、そのほかの利用者には毎回

入浴していただき、なるべくゆったりと楽しんで入浴してもらえるように努めました。

利用人数が多いときは、無理をせず午前・午後に分けての入浴としました。

- ・入浴の介助は同性介助の徹底を目標としましたが、男性の入浴は8月より男性職員が休職したため、女性職員が担当することも多くなり徹底して実施することができませんでした。女性の場合は、オープン以来完全な同性介助を実施し、女性利用者にとって当たり前のこととして定着しました。
- ・昨年同様に年間を通じ、季節感を取り入れた菖蒲湯やゆず湯などの実施、また浴室や更衣室に、遊び心のある飾り物や動物の人形を置き入浴を楽しむための環境作りに気を配りました。
- ・介護度が高い利用者が多く利用する曜日は、入浴時間が大幅に伸びてしまい、他の活動に影響を与えてしまうことしばしばでした。各曜日とも利用者数が多くなったので介護予防や自立支援を意識し、利用者の心身の機能を生かした援助を心がけました。
- ・入浴後、脱衣室で冷たい麦茶を提供してきましたが、利用者にはありがたいと好評なため今後も継続していきたいと思います。

(4) 排泄の介助

- ・排泄が自立している利用者の中にも、目の不自由な利用者や歩行に不安のある利用者、またトイレの位置がわからなくなる利用者が多いため、常に職員が意識して見守り、必要に応じて介助したり付き添いを実施し、安全に過ごせたと思います。
- ・便の後始末時には、感染予防のため手袋使用や消毒の実施を徹底しました。
- ・介助や声かけを必要とする利用者の場合は、昨年同様に排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導や介助を実施しました。さらに認知症の利用者や、家族希望のあった利用者の中には、排泄状況を記録し毎回連絡帳に記入し報告することができました。
- ・利用者のプライバシーに関する配慮や安全・安楽な介助、利用者への心理的なケアという点は、デイ利用者へのすべての対応において努力していますが、今後もより質を高めていかなければならないと感じています。

(5) 食事サービス

- ・今年度は清潔確保と感染防止の点で一段と細やかな配慮をし、食事の盛り付けには必ずグローブ使用するなどを実施しました。
- ・デイサービス利用者は、家庭での濃い目の味付けや買った惣菜に慣れているため味付けについて意見が多く聞かれましたので、必要に応じて栄養課に伝えたり、委員会に意見として提出するようにしました。
- ・今年度は行事食・おやつの内容が、握りずしや刺身の盛り合わせ、手作り饅頭やデザートなど例年になく工夫もされていて利用者には好評でした。昼食提供延べ 5

195食。

(6) 趣味活動・その他

- ・利用者自身から趣味活動やレクなどの希望があった場合には、できる限り取り組めるようにしました。時には、利用者から作品作りのアイデアをもらったり、新しいアイテムが持ち込まれ他の利用者への良い刺激となりました。
- ・今年度は、自分で作りたいものを決め材料を持ち込む姿も多くみられ、利用者の自由が尊重できた反面、利用者が興味を持つアイテムを職員側から提供できなかったという反省もしています。
- ・新しい作品が出来上がると、全員の前で完成を喜びあい披露することは、昨年同様に必ず行いました。褒められたり注目されることはどの利用者にとっても意欲付けになり、利用者間のコミュニケーションにも大変効果的でした。
- ・今年度は新規の利用者も多く、しかも趣味活動が選べ個人的に取り組めるという目的を持つ利用者が増えました。そのような利用者には期待を裏切らないような援助を心がけ、接し方や内容の工夫でさらに意欲や自信をもって活動するようになったケースも多くありました。
- ・園芸は昨年同様にと計画しましたが、花作りや野菜作りに興味のある利用者が休止となったり、利用者人数が増え職員が個別対応に追われて時間が取れなかったこともあり、田植えや野菜作りはできずに、春と秋に花を植えた程度でした。
- ・年度変わりの時期に、各職員がさまざまな内容について発想し計画的に取り組んでいくような土壌作りが必要と感じました。

① 作業

今年度はスティック編み物、タイルモザイク画、パイル盆製作、ちぎり絵、塗り絵、ビーズ細工、粘土細工、ペーパーブロック、折り紙、ペーパーフラワー、メッシュフラワー、きのこ人形、ピエロ人形、押し絵、ミニアート、刺し子、木工細工、巾着袋作り、ロールキャッチャー、匂い袋飾り、手まりりんご、押し花絵などに加えて、下記の作業を取り入れました。

指編み物	毛糸の洗いたわし、ミニマフラー、雛飾りを指で編む
ちぎり絵	和紙をちぎり、絵に仕上げる
広告細工	もの入れを作ったり、蝶々飾りを折る
鉤針編み	袋や人形を編む
ビーズアート	下絵に色とりどりのビーズを貼り絵を完成する。
木工細工	紙やすりで磨き、バターナイフ作りをする

② レク・クラブ活動

19年度は定期的なクラブ活動として月・火曜日の書道、隔週で木・金曜日に花

クラブ、特養と合同の書道クラブ（いずれもボランティアの講師により本格的な指導）を継続実施しました。花クラブは、毎回季節の花々を楽しみながら活け、家に持ち帰ることができ男性も一緒に参加して好評でしたが、ボランティア講師の都合で8月より月1回の実施となりました。書道は2月に講師の先生が変わりましたが、書道を希望する利用者は多く、熱心に練習し作品に仕上がっています。地区のボランティアによるお茶クラブは、月1回となり皆さんにとっても喜ばれています。

そのほか、19年度は体を動かすレクのほかに介護予防的で脳トレーニングになるトランプ、カルタ、クイズ、計算問題、まちがい探し、パズルも多く実施しました。

③ 心地良い空間づくり

利用者が心身ともに開放的にゆったりと過ごせる時間を大切にすることは継続しました。昼食後のお茶の時間やフットマッサージは心身への良い効果も得られ、利用者の皆さんの楽しい時間としてすっかり定着しました。またゲームや談話で交流したり、散歩したり、時には静かにうとうとしたりと、利用者それぞれが自由に過ごす姿が見られました。キッチンルームでテレビを見ることが定着し、利用者の皆さんは見たいときに自分で移動しています。見たくないのに、テレビがついているからただ眺めているということがなくなり、作業をする利用者が落ち着いて取り組めるようになりました。

(7) ヒヤリハット事故・報告について

常に安全に配慮しながら業務に当たりましたが、今年度は19件（転倒7、転落1、その他11）の報告となりました。昨年度22件より数的には減少しましたが、報告の内容を見るとサービスを提供する専門職として、介護技術面から利用者の心理まで、また事故に対するかんがえ方や対処の仕方まで、反省点を徹底して改め実践していく必要性を感じました。来年度は職員の対処の仕方や環境の整備で防げることは、極力未然に防いでいくように心がけたいと思います。

*ヒヤリハット事故報告における「その他」の内容について

- 入浴時
 - ・車椅子からの移乗介助時に足の指先を床ですりむく。
 - ・立ち上がり介助時、利用者の足がすべりステンレス棒にて足の指の打撲となる。
 - ・バスボードを扱う際、ボードが利用者の手にあたり軽い打撲。
 - ・入り口の暖簾が落ち利用者の顔に心棒があたり軽い打撲となる。
- 送迎時
 - ・利用者が走行中にシートベルトの留め金をはずした後、体をベルトで強く締め付けられてしまう。
 - ・利用者が自宅近くになりシートベルトをはずしたことに職員が気づかず、直後に車の飛び出しのための急ブレーキで利用者が前のめりとなり顔を前の椅子にぶつけ打撲となる。

- ・優先道路を走行中わき道から自転車の小学生が飛び出し、ワゴンと自転車が接触。自転車の小学生は飛び降りてけがなし。
 - ・デイサービスに到着し、車から降りてドアを閉める際利用者が指を挟んでしまう。
- フローアードラム式コードが加熱し、一部が溶けてしまう。
- ・利用者が休んでいるリクライニング車椅子上にパーテーションが倒れてしまう。けがはないが心理的に影響あり。

(8) 介護予防サービスの実施

①介護予防体操（健康体操）の実施

平成19年4月より介護予防サービスの提供が始まりました。平成18年2月より開始した介護予防体操（健康体操）を毎日休まず実施したところ、今では利用者の多くが楽しみに参加し、欠かせない活動となっています。今では利用者の間から「体が軽くなる」「杖が要らなくなった」「朝起きたときに足が攣らなくなった」などが聞かれ、良い効果が現れていることが伺えます。

用具はセラバンド、ソフトジムなどの専門用具、サランラップ利用の棒、モヤットボール、タオルなどを使用。マンネリ化防止のため、20年度早々に新用具バランスディスクを購入予定です。

②口腔ケア・口腔ケア体操

昼食前の口腔ケア体操、および昼食後の口腔ケアは、全員実施するようになってから2年が経過。家で昼食後にうがいや歯磨きをする習慣の人は少ないようで、呼びかけてもはじめはしてくれない人が大分いました。今では多くの利用者が自分から進んで行うようになり、口の動きが良くなった、言葉の発音が以前よりはっきりしたなどのほかに、口臭の改善に大きな効果がありました。

(9) 相談等における努力

①各事業所との関わり

- ・4月から介護予防サービスが開始され、富士見市地域包括支援センターとの関わりができました。マシーン等は導入しませんでした。個別の趣味活動を援助するデイとして介護予防の視点に合致していることや、在宅支援センターや居宅支援センターとしてむさしの職員が地域包括支援センターと接触している関係もあり、年内に9名が利用するようになりました。
- ・今年度も利用者のデイ利用時の様子や変化、また特変をこまめに連絡し、ケアマネにも利用者の状況を共に把握してもらえるように情報提供に努めました。その結果、新規紹介が増え、利用者獲得につながりました。

新年度より各利用者の1ヶ月の様子をまとめたこれまでの記録「利用状況表」の形式を変えて「活動報告書」とし、医務的な内容も記入するようにしました。報告書の作成は職員にとって大変な作業ですが、実績とともに事業所に届ける

ことをずっと継続しています。

- ・実績報告の作成は、利用者数が70名近くに増え大変となりましたが、個人情報への配慮からできる限り月末に済ませ、次月早々に各事業所に配布できるようにしました。なるべく事業所を回り直接配布するようにしていましたが、8月より相談員が体調により長期休職したため、ファックス送付で済ませることも多くなってしまいました。しかし、これまでの努力の成果もあり利用者は確実に増え毎月のように新規利用者が入るような状況でした。請求業務は円滑且つ正確に処理するように努めました。
- ・各事業所からのケアプラン要請には、迅速に対応しました。

②利用者・家族との関わり

- ・連絡帳には小さなことも大切に記入するように努め、特にケガや体調変化に関することは、看護師の助言も含め家族との情報交換を図りました
今年3月には施設のパソコンシステム変更に伴い、連絡帳の形式内容を大きく変える事になりました。
- ・夏祭りや餅つき会などには多くのご家族参加があり、交流を深めることができました。
- ・利用者が体調不良で休んだときには、必ずその日に相談員が電話し、利用者やご家族への心遣いに努めました。
- ・制度の改正時・デイ体制の変化時などのほか、事務連絡をこまめに配布し、利用者や家族の理解・協力を得るようにしました。

③新規利用者の獲得と受け入れ

- ・今年度も利用者の面接・契約、また受け入れへの迅速な対応を心がけ実施しました。
- ・デイサービスの見学や体験利用の積極的な受け入れ実施
デイ無料体験で納得してから利用できるという点が、事業所や利用者から喜ばれ、体験希望者が多くなりました。体験利用時は写真入りカードをプレゼントし大変喜んでもらっています。

月	見学		体験		計	結果
	利用者	その他	利用者	その他		利用となる
5	1		2		3	1
6	2		1		3	2
7	1				1	
8	1	3(ケアマネ)	1		5	3

9	3	3 (ケアマネ)	1	1 (家族)	8	3
10	3	3 (ケアマネ) 3 (家族)	6		15	3
11		2 (民生委員)	2		4	2
12			1		1	1
1			1	1 (家族)	2	1
2	3		2	1 (ケアマネ)	6	4
3	4	4 (ケアマネ) 1 (民生委員) 5 (家族)			14	4
計	18人	24人	17人	3人	62人	24人

*その他に個人での見学、事業所・一般見学は随時受け入れ案内実施。

(10) ボランティアの受け入れ

- ・ 定期のボランティア
書道 (週 1~2 回)、花クラブ (月 1 回木・金)
- ・ 不定期なボランティア
ハーモニカ、歌謡教室の皆さん、日本舞踊、踊り、コーラス、茶道など
- ・ 特養クラブへの参加
習字クラブ (週 1 回水曜日)
音楽クラブ、カラオケクラブ、大正琴クラブ、エレキクラブなど

(11) 委員会活動

- ・ 安全委員会、広報委員会、食事委員会へは、担当職員を決めできる範囲で参加し、別のセクションと連携できるように努めましたが、送迎から施設へ戻ってくるのが遅くなり、出席できないこともしばしばでした。職員として他のセクションと連携できる場でもあるので、来年度はもっと積極的に関わられるようになってきたらと思う。

ヘルパーステーションむさしの

- 1 訪問介護サービスの実施状況は下記の通りでした。地域性も大きく影響し近隣での需要がほとんどないのに加え、問い合わせのあるケースは土日や時間外が多い状況でした。特に事業の拡大は考えず、残ったケースを大切にサービス提供しました。
8月に利用者が手術入院、その後10月に在宅復帰するになりましたが、健康の回復が遅れたため必要な訪問介護日数が大幅に増え対応するのが難しくなりました。やむを得ず、他事業所に委ねることにしました。
その後、事業は休止の状態経過しました。

月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人員	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
延べ日数	2	2	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	13

- 2 ヘルパー職員は 昨年度より非常勤職員の確保も難しく利用ケースも減少したため、施設内他事業と兼務としヘルパー業務に従事しました。
- 3 サービス提供責任者及びヘルパー職員は、自己努力や職場内部の研修に積極的に参加し職員としての資質向上に努めました。
- 4 居宅サービス計画書の内容に沿って、利用者及び家族の希望を組み入れ訪問介護計画書を作成、こまめに評価及び見直しを行い、日頃のサービス提供記録等を確実に実施できました。
- 6 担当の居宅支援事業所への連絡・報告をこまめに行い、できる限り共通認識を持ってサービスが提供できるようにしました。時には利用者の話の内容から、サービス内容の変更等を提案することもありました。
- 7 サービス提供にあたっては誠意と責任ある対応で、利用者との信頼関係を大事に行うことができました。

在宅介護支援センター

平成 19 年 3 月 15 日に、富士見市役所高齢者福祉課内に中央地域包括支援センターが設置され、高齢者の心身の健康維持や安定した暮らしを地域ぐるみで支えていく拠点ができました。

それに伴い市内既存の 3 在宅介護支援センターは、中央・東・西の各圏域の各担当となり地域の身近な相談窓口としての総合相談や各事業の委託を受けました。

当支援センターは、東圏域の南畑・水谷東・水谷地域の担当となりました。担当地域の大幅変更により南畑以外は新規担当地域となり、地域の実情を把握していくことをはじめ地域の関係機関や、関係者との連携を念頭に以下の事業（実態把握・介護者教室・あんしんネットワーク会議等）を展開しました。

1 総合相談

在宅の援護が必要な高齢者や家族に、介護保険制度の説明や利用方法、施設入所に関する必要な情報の提供等、さまざまな総合相談に応じました。

家族からの相談はもちろん民生委員からの相談も増えたことや、地域関係者の一報から虐待と思われる事例を地域包括支援センターに繋げ高齢者の権利を守っていったことなども挙げられます。

月別相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	14	15	23	14	13	15	10	14	8	10	16	13
年間合計165件												

2 実態把握訪問

訪問先としては、介護保険の認定は受けられたが、居宅介護支援事業所と未契約だったり介護保険サービス未利用の高齢者を、市役所からの情報により戸別訪問しました。

また、独居や日中独居、高齢者世帯の生活や介護状況を伺い制度理解をしていただくとともに情報提供や保健・福祉サービスの利用手続きや関連機関と連携し安心して生活が行えるよう支援しました。

困難を極めたこととして、在宅介護支援センターの認知度が限りなくゼロに近く、営業活動と間違われることも多かったり、昨今の高齢者を狙った詐欺が横行しているため訪問時の警戒心が強く、訪問の意図を理解してもらえず、聞き取り調査に腐心しました。

適性に実施していくために、市長の公印入りの実態把握調査の趣旨説明の書面等を提案したところ実施可能となったため、同書面を携行し訪問調査を進めました。

年度内の件数上限があるため、年間を平均して訪問できるよう以下のような数字となりました。

また、市の高齢者生活支援として、高齢者または身体障害者のみの世帯で調理が困難な方へのサービスとして「配食サービス」事業がありますが、実施状況把握の調査も委託を受け訪問調査を行いました。

月別実態把握件数（年度上限150件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	12	14	14	15	14	11	16	16	15	11	12	0
年間合計150件												

（うち富士見市配食サービス事業調査31件を含む）

3 介護者教室

高齢者が、できる限り介護が必要な状態にならないよう健康でいきいきと生活できることや要介護者を抱える家族の介護負担軽減のための情報提供や啓発のために開催しました。

新規担当地域での開催にあたっては、前年度の実績がないため地域関係者との接触からはじめ、在宅介護支援センターが老人福祉法に基づく公的機関であり、市から委託を受け開催することを理解していただくことからスタートしました。

実施場所は、「まずは、地域に出ていく」ことを主眼に、高齢者が歩いて気軽に参加できる地域の集会所を使用し、2回開催したところ、再度依頼があり合計3回開催しました。

また、地域に開かれた施設として母体施設を使用しての教室も開催しました。市『広報

ふじみ』掲載、『南畑公民館だより』（1250部）への案内チラシ差し込み等を実施し、市民・地域への周知を図りました。

内容としては、以下のように、寝たきりの要因の一つである転倒予防のための体作りや、福祉用具を実際に触れることでいざという時困らないような教室を開催しました。

介護者教室（年度上限3回）

回	月 日	場 所	内 容	参加者数
1	6月10日（日） 11:00~12:00	市河川水防センター・貝塚クラブ	「暮らしに生かせるラクラク動作」	21名
2	8月5日（日） 10:00~11:00	むさしの 機能訓練室	「来て！見て！体験！福祉用具」	19名
3	1月28日（月） 13:30~15:00	水谷第三集会所	「転ばぬ先のからだづくり」	35名
4	3月24日（月） 13:30~15:00	水谷第三集会所	「転ばぬ先のからだづくり」ソフトジムを使って	35名
合計参加人数				110名

4 あんしんネットワーク

高齢者やその家族に対して介護に対する問題の発生の予防と早期発見を行い、総合的なサービス提供のために関係機関と連携を目指し会議出席や会議開催を以下のように行いました。

あんしんネットワーク会議（年度上限4回：4回開催）

回	月 日	場 所	対象団体・会議名	人数
1	5月22日（火）	水谷東公民館ふれあいサロン	「リハビリ健康づくりの集い」のサポーターとの情報交換会	8名
2	6月29日（金）	水谷東公民館	水谷東1・2・3・榎木町民生委員と地域包括支援センターとの情報交換会	19名
3	1月29日（火）	南畑公民館	南畑地区社会福祉協議会福祉委員として出席	25名
4	2月19日（火）	南畑公民館	南畑地区社会福祉協議会福祉委員として出席	22名
合計参加人数				74名

4 その他の活動

- ・南畑地区社会福祉協議会常任委員福祉委員としての動きとしては、以下のようなものとして、定例会・総会（5月9日、5月31日）に出席、環境浄化運動（6月24日）に参加、敬老会（9月17日）に参加、福祉委員会（1月29日、2月19日）に出席、福祉委員研修会（2月23日）に参加し地域内組織との連携を深めるよう努めました。
- ・民生委員児童委員、婦人会見学来所の受け入れ窓口として、富士見市民生委員児童委員協議会见学来所（6月15日）、みずほ台地区民生委員児童委員高齢者部会见学来所（7月4日）、勝瀬アイムふじみ野民生委員見学来所（11月13日）、水谷婦人会婦人学級見学来所（3月12日）を母体施設と連携し行いました。
- ・水谷東ふれあいサロン運営委員会（7月20日）へは、新規担当地区となったため地域包括支援センターと出席し関係機関や関係者への周知を行いました。
- ・市地域包括支援センターと在宅支援センターとの連携について、市民への周知の一環として、担当地域内 JA、郵便局、調剤薬局にチラシ配布（10月19日～23日）の広報活動を行いました。
- ・市地域包括支援センターと在宅介護支援センター連絡会議（毎月三水曜）では、活動報告や情報交換を行い地域福祉に資するよう連携構築を行いました。

居宅支援事業

4月末まで管理者1名と常勤1名の介護支援専門員で事業を運営してきましたが、常勤職員の6月退職に伴ない、ケースを円滑に引き継ぎ、影響なく継続支援していくことが年度初めの課題となりました。また4月より富士見市でも介護予防サービスが開始となり、予防支援も含めて利用者の増加が予測されるため、受け入れ枠を拡げるとともに、新しい指定居宅介護支援事業の人員及び運営に関する基準に準じて事業を展開する必要性が生じてきました。そのため5月より非常勤職員を2名と、在宅支援事業兼務の介護支援専門員も含め3人の職員を増員しました。

当初は事業自体の新体制出発に加え、全利用者の引き継ぎが次々に行われ日々の業務をこなすのが精いっぱいの状態でしたが、3ヵ月後には各サービス利用者への支援サービスがこまやかに遂行できるようになり、相談やプランの受け入れも円滑に実施できました。また「支援センターむさしの」の役割や活動状況が地域関係者や一般にも徐々に知れ渡り、来所相談や電話での問い合わせも増えてきました。来年度は今年度の反省を踏まえ、さらに努力を重ね地域や利用者の皆様の期待に応えられる事業を実施したいと思います。

1 居宅支援実績について

月	実績件数	請求件数	予防プラン	新規	ケアプラン休止件数	
					(入院)	(その他)
4月	54	51	0	0	0	1

5月	53	53	0	0	0	2
6月	50	50	0	2	2	1
7月	52	51	2	6	2	2
8月	46	45	2	2	5	6
9月	46	45	2	0	5	4
10月	50	50	2	4	3	5
11月	50	50	2	2	3	5
12月	50	50	3	4	4	6
1月	49	51	3	1	6	4
2月	47	45	3	3	7	5
3月	52	54	3	4	4	5
計	599	595	22	28	41	46

6月より新規のプラン件数も徐々に増えてきましたが、それ以上に体調をくずして入院する、施設に入所するなどの自然的な減少が常にあり、月に対応した件数はほとんど変わりありませんが、内容的にみると利用者の出入りや変化は大きかったようです。

2 相談援助体制について

- (1) 新規相談受け入れ時の面接調査等は、できる限り2人体制で行い、多くの視点から情報を集め検討の上サービスを調整するようにしました。職員にとってはお互いを磨きあう機会でもあり、安心して訪問できる方法でした。実際に2人で対応してよかったと思われるケースが何例もありました。
- (2) 日頃から地域関係や社会関係の情報収集に努め、職員全体で情報を共有するように努めました。特に在宅支援センターの事業を展開し地域でこまめに活動していることが、利用者獲得や情報収集など様々な面で良い影響をもたらしたと思います。
- (3) 今年度から月1回のペースで支援会議を実施しました、施設における支援センターとしての役割を果たし支援業務を円滑に遂行していくために、また職員個々における相談への対応状況をできるかぎり共有・把握し、時には共通の認識をもって検討する場としました。お互いに声にして自分の意見を出し交換することが、いかに大切かを実感しました。
- (4) 介護支援専門員としての専門知識・援助能力等の向上のため、内部および外部研修等には積極的に参加しました。そこで得た知識や情報が援助に役立つことも多くありましたので、来年度も職員の研修意欲を大切にして継続していきたいと思えます。

- (5) 職員は日々の業務に追われると、惰性で量的にこなしがちですが、来年度は一段と気を引き締めて各自の業務の質向上を図ります。
- (6) 今年度も地域や一般からの相談が多くありましたが、どんな時でも誠実に受け入れられる限り迅速・適切な対応をするように努めました。
- (7) 困難事例への対処や必要時には、支援の職員だけでなく施設長も交えて相談・検討しました。委託の予防のケースにおいては、問題発生時には市地域包括支援センター担当者と連絡を取り相談を重ねて対応できました。

3 利用者に対する支援について

- (1) 介護支援専門員は、基本的倫理観や援助に対する姿勢が厳しく問われます。工作上、外部に出て職員個々で判断し行動することが多いため、なおさら一人ひとりが社会的責任や公平性、中立性を意識し、自己を律しながら実践していくことが必要だと感じました。
- (2) サービス計画の作成は、社会資源に関するさまざまな情報を提供しながら、利用者・家族の意向を反映させ、支援提供側の思いや選択に偏らないようにしました。
- (3) 介護保険制度について一般にはまだまだ知られていない部分があり、理解や合意を求めるため、初回面接時など機会あるごとに説明を実施しました。特に新たに始まった介護予防サービスについては、介護給付との違いを利用者・家族に理解してもらえるように努めました。
- (4) 申請代行（更新・新規等）は、2ヶ月前に利用者に声をかけに滞りなく支援できました。また今後も担当利用者の生活状況や心身の状況変化を見逃さず、早めに適切な対応ができるように連携していきます。
- (5) 利用者の支援を通して、介護保険法以外の制度や保険者独自の制度などに関わるため、常に職員は学びながら利用者の不利益にならないような援助を心がけました。しかし専門知識として不足な部分もあるため、経験を重ね引き続き習熟できるように努めたいと思います。

4 サービス提供事業者との連携

- (1) 介護保険制度で義務付けられた担当者会議を、必要時にできる限り開催するようにしました。事前に照会状で、サービス事業者側のサービスの実施状況や居宅サービス計画に対する意見を求めてから居宅サービス計画書の原案を作成し、会議の場で提示しました。この方法は参加者や欠席者の意見が組み入れられているため、居宅サービス計画を検討しまとめるのにとても有効でした。
- (2) 常にサービス事業者や関係機関と連携を取りながら、居宅サービス計画に沿ってサービスを提供してもらえるように調整に努めることができました。
- (3) 利用者の個人情報の取り扱いに関しては、常に細心の注意を払い正当に実施できた

と思います。

5 関係書類および記録の充実

- (1) 契約書・重要事項説明書の見直しをし、利用者・家族が読んで理解しやすい内容に変えていくことが必要ではないかと、業務を通して感じました。
- (2) アセスメント経過、支援経過記録、居宅サービス計画などが未作成の利用者については、昨年 5 月より徐々に整備してきましたが、さらに個々の利用者の記録、ファイルの整備が必要なため今後も課題として取り組んでいきます。
- (3) これまで提供票等の書類をサービス提供事業所とやりとりした確実な書類が保存されていないため、今年度 2 月から交付及び受領書の用紙を作成し保存するようにしました。

6 介護認定調査について

平成 19 年 9 月より富士見市の委託を受け、介護認定調査業務に関わることになりました。介護支援専門員として在支や居宅業務をこなしながら取り組むのは、慣れるまで大変でした。マニュアルを読み込みながら慎重に調査し資料を作成しても、時には市職員より指導を受けることもありましたが、職員は黙々とこなす努力をしてくれました。調査やその後の資料作りに関わることで、面接技法が高まり、利用者の心身状況把握に関する判断基準が明確になったように思います。

支援センター3名、特別養護老人ホーム1名の介護支援専門員により、計49件の認定調査を実施しました

栄養課

1 栄養ケアマネジメント

栄養ケアマネジメントに取組み始めてから約2年がたち、ようやく軌道にのせる事ができました。今後とも、より充実した内容とし利用者個々の栄養食事状態のケア、(参考1, 2)嗜好調査等を通して計画的なマネジメントを行い栄養状態の維持、改善に努めます。

2 仕込み、発注の見直し

3月4月と試験的に毎週金曜日に2日仕込みを導入しました。今後も更に検討し、より効率的にしていきます。

3 食事について

ピザやオムライス、寿司や鉄板焼き、鍋など試行錯誤し提供する事ができました。これからも、続けていきます

4 衛生管理について

一部冷蔵庫冷凍庫の故障がありました但関係部門と迅速に対応して大事にいたりませんでした。今後も良い連携で対処していきます。

5 配食サービスについて

残念ながら現在利用者数 2 名となつてしまいました。管理課と連携や広報活動を通じて利用率が高まるよう、更に努力します。

6 行事食について

施設年間行事、各ユニット行事起案に準じて行う事ができました。更に見た目、味の向上に努めます。

(参考1)

別養護老人ホームむさしの 栄養課

嗜好調査票

調査日：平成 年 月 日

ユニット名： 階
入所者氏名 様

こんにちは。日頃の食事についてアンケートを実施したいと思いますのでご協力をお願いいたします。当てはまる所に○をつけてください。また必要な所は御記入お願いいたします。

1. 現在の食事全体の量はいかがですか？
(多い・丁度良い・少ない)
2. 食事の味はいかがですか？
(美味しい・まずい・どちらでもない)
3. 食事の味付けはいかがですか？
(濃い・丁度良い・薄い)
4. 食事は温かく(冷たい物は冷たく)提供されていますか？
(出てる・出てない・出てない時がある)
5. おかずは硬いですか？軟らかいですか？
(硬い・丁度良い・軟らかい)
※ 硬いものがあればその内容をお教えてください。

()

6. 食事の盛り付けは きれいに盛られていますか？
(良い・きたない・普通)
7. 彩りはいかがですか？
(良い・悪い・普通)
8. 配膳車が来てから食事が提供されるまでの時間は？
(早い・普通・遅い)
9. ご飯・お粥は美味しいですか？
(美味しい・まずい・普通)
10. ご飯・お粥の硬さはいかがですか？

- (硬い・軟らかい・普通)
11. ご飯の量はいかがですか？
(多い・少ない・普通)
12. 味噌汁の味付けはいかがですか？
(濃い・薄い・普通)
13. 次に挙げる主食のうち、好きな物の順に番号をつけて下さい。
※ご飯・お粥()、パン()、うどん・そば()
14. 次に挙げるおかずの内容のうち、好きな物の順に番号をつけて下さい。
※魚()、肉()、豆腐()、玉子()、野菜()
15. どのような料理がお好みですか？
※和食()、洋食()、中華()
16. その中で、一番食べたいものは何ですか？
()
17. お酒を飲みたいと思いますか？
(はい・いいえ)
18. 17. の質問で「はい」と答えた方への質問
※どのような時に飲みたいですか？
(毎日・週に一回程度・イベントの時だけで可)
19. その他、ご要望など

[]

ご協力ありがとうございました。

(参考2)

特別養護老人ホームむさしの 栄養課

嗜好調査表結果

調査日：平成 20年 2月 25—29日

- 1 現在の食事全体の量はいかがですか？
(多い 5名・丁度良い 18名・少ない 1名)
- 2 食事全体の味はいかがですか？
(おいしい 16名・まずい 3名・普通 5名)
- 3 食事全体の味付けはいかがですか？
(濃い 3名・丁度良い 16名・薄い 5名)
- 4 食事は温かく冷たい物は冷たく提供されていますか
(出てる 16名・出てない 2名・出てない時がある 6名)
- 5 おかずは硬いですか
(硬い 4名・丁度良い 15名・軟らかい 5名)
- 6 食事の盛り付けはきれいですか
(良い 13名・きたない 2名・普通 9名)
- 7 彩りはいかがですか
(良い 14名・悪い 1名・普通 6名)
- 8 食事が提供されるまでの時間は
(早い 2名・遅い 20名・普通 20名)
- 9 ご飯・お粥は美味しいですか 味？
(美味しい 14名・まずい 1名・普通 8名)
- 10 ご飯、お粥の硬さはいかがですか？
(硬い 1名・軟らかい 1名・普通 20名)
- 11 ご飯、お粥の量はいかがですか
(多い 5名・少ない 0名・普通 19名)
- 12 汁の味付けはいかがですか
(濃い 4名・薄い 4名・普通 14名)
- 13 好みの主食はなんですか 米・パン・麺
(ご飯、お粥 15名・パン 2名・麺 4名)
- 14 好みのおかずは何ですか？ 肉・魚・豆腐・卵・野菜
(肉 1名・魚 3名・豆腐 10名・卵 5名・野菜 5名)
- 15 好みの料理は何ですか？ 和食・洋食・中華
(和食 14名・洋食 6名・中華 3名)
- 16 食べたい物は何ですか？
魚料理 4名 寿司 3名 ばら寿司 2名 おでん 2名 煮物 2名 刺身、五目御飯、
赤飯、お好み焼き、豚汁、ラーメン、サンドイッチ各 1名
- 17 飲酒について
飲みたい 4名 ・飲まなくて良い 14名
- 18 その他のご意見
菜の花が硬かった 5名 アスパラが硬かった 1名
肉が硬かった 2名 ぜんまいが硬かった 1名
筍が硬かった 1名 ブロッコリーが柔らかすぎる 1名